

5 花き

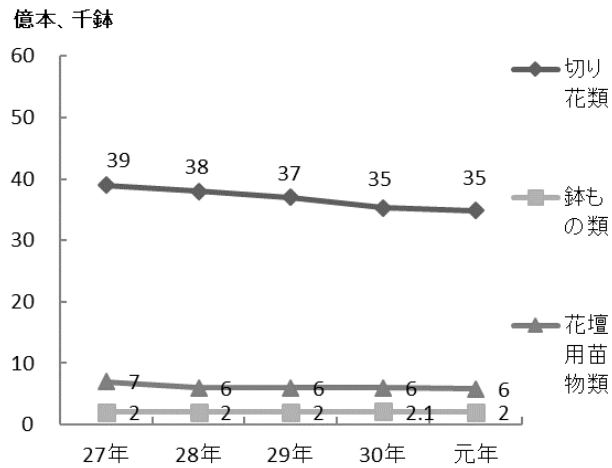
(1) 出荷動向（令和元年実績）

ア 全国

－出荷量は、減少傾向で推移－

令和元年産国産花きの出荷量は、切り花類 34 億 8,200 万本 35 億 3,400 万本(前年比 98.5%)、鉢ものの類 2 億 500 万鉢(前年比 99.1%)、花壇用苗もの類 5 億 7,900 万本(前年比 113.6%)で、生産者の高齢化に伴う規模縮小等により、近年、減少傾向で推移しています（図 I-5-1）。

図 I-5-1 全国の出荷量の推移（全国）



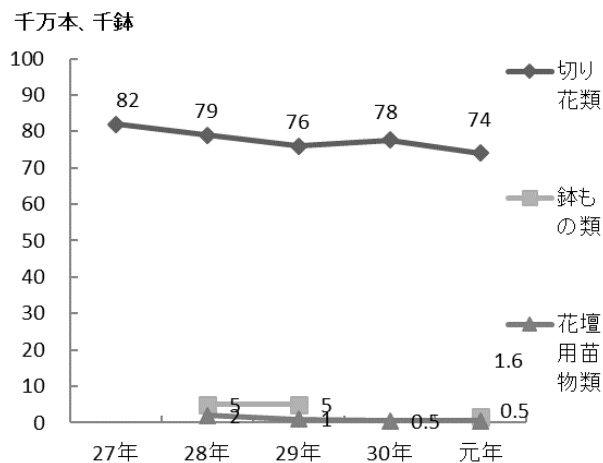
資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

イ 県内

－切り花類の出荷量は、伸び悩みの傾向－

令和元年産県産花きの出荷量は、切り花類 7,410 万本(前年比 95.5%)で、近年、減少傾向で推移しています（図 I-5-2）。

図 I-5-2 本県の出荷量の推移（本県）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

※「花壇用苗物類」、「鉢ものの類」のうち、H27・30 は本県調査対象外につきデータなし

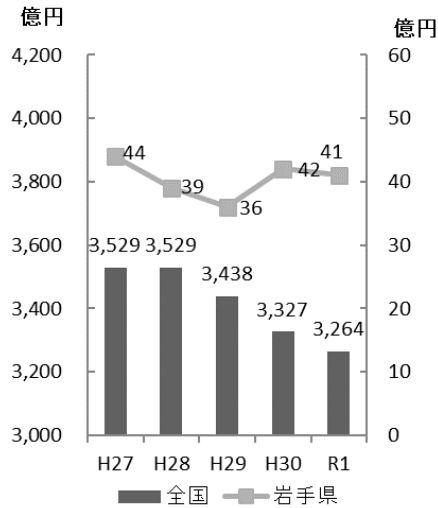
(2) 花き産出額

－花きの産出額は減少－

令和元年度の全国の花き産出額は、3,264 億円（前年比 98.1%）、うち本県は 41 億円（前年比 97.6%）となっています（図 I-5-3）。

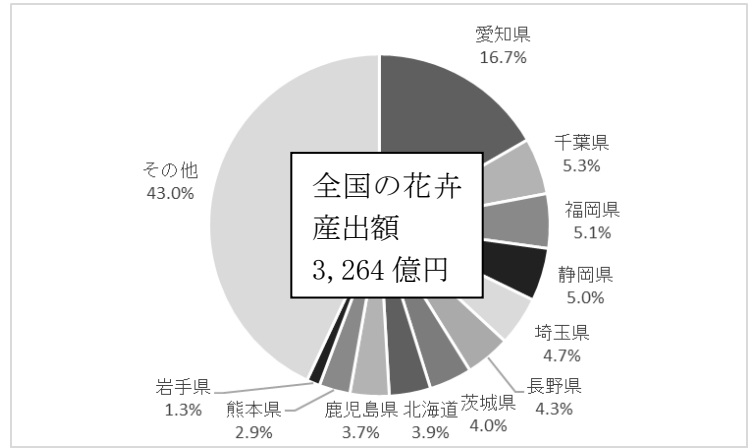
都道府県別の産出額をみると、本県は 1.3%を占めています（図 I-5-4）。

図 I-5-3 花き産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図 I-5-4 都道府県別の花き産出額の割合



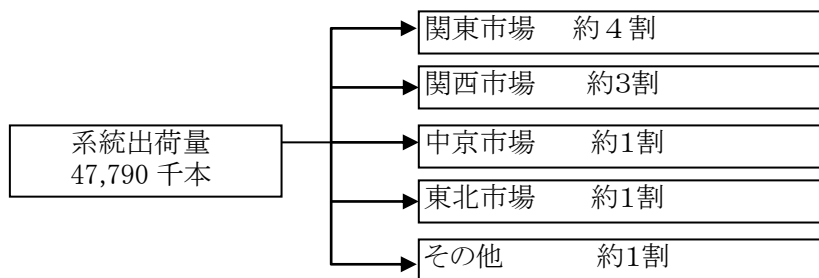
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(3) 県産りんどうの流通状況

－関東市場への出荷割合は約 4 割－

令和元年産りんどうの流通状況をみると、系統出荷量のうち関東市場に最も多い約 4 割、次いで関西市場約 3 割となっています（図 I-5-5）。

図 I-5-5 県産りんどうの流通状況（令和元年産）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」、JA全農いわて聞き取り

(4) 東京都中央卸売市場における取扱状況等

ア 入荷動向

－花きの出荷は、減少傾向で推移－

東京都中央卸売市場における花きの取扱数量をみると、全国的に減少傾向にあります。

全国に占める本県産花きの割合をみると、切り花は平成 25 年度以降、概ね増加傾向にあったものの、平成 28 年度からは減少しています（表 I-5-1）。

表 I-5-1 東京都中央卸売市場における主要花きの取扱数量

単位:千本、千鉢、千箱

	28年		29年		30年		令和元年		令和2年	
	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産
■切り花計	886,201	24,612 (2.8%)	864,474	21,249 (2.5%)	846,078	20,330 (2.4%)	826,185	20,424 (2.4%)	754,207	20,185 (2.7%)
りんどう	24,281	16,124 (66.4%)	21,833	13,873 (63.5%)	22,722	14,376 (63.3%)	22,663	14,883 (65.7%)	21,448	15,016 (70.0%)
小ぎく	64,976	5,120 (7.9%)	66,157	4,672 (7.0%)	59,980	3,696 (6.2%)	60,709	3,192 (5.3%)	56,551	2,905 (5.1%)
ゆり類	27,919	338 (1.2%)	26,575	271 (1.0%)	26,279	338 (1.3%)	25,517	436 (1.7%)	24,006	534 (2.2%)
トルコキョウ類	26,281	195 (0.7%)	25,935	173 (0.7%)	26,746	158 (0.6%)	25,813	173 (0.7%)	22,030	167 (0.8%)
スターチス類	29,154	223 (0.8%)	29,805	186 (0.6%)	30,505	86 (0.3%)	31,718	76 (0.2%)	33,899	73 (0.2%)
ストック類	9,473	68 (0.7%)	10,339	49 (0.5%)	9,816	51 (0.5%)	9,126	32 (0.4%)	8,556	19 (0.2%)
■鉢花類	16,633	246 (1.5%)	15,846	243 (1.5%)	13,935	221 (1.6%)	12,498	192 (1.5%)	11,748	180 (1.5%)
鉢物りんどう	122	84 (68.8%)	103	60 (57.9%)	84	59 (70.2%)	68	51 (75.0%)	73	53 (72.9%)
■花壇苗類	2,799	11 (0.4%)	2,763	10 (0.4%)	2,504	10 (0.4%)	2,578	12 (0.5%)	2,361	11 (0.4%)
パンジー	415	3 (0.7%)	425	2 (0.5%)	383	2 (0.5%)	350	2 (0.5%)	368	2 (0.6%)

資料：東京都中央卸売市場統計情報

イ 令和2年産品目別の状況

① りんどう

本県の出荷量は、1,501万6,000本と全国第1位で、出荷割合は70.0%となっています。

最も出荷量の多い月は9月の531万1,000本で、8月から9月にかけて本県の年間出荷量の69.8%を占めています。

また、出荷割合が全体の約7割を占めることから、単価の面では本県がプライスリーダーになっていると考えられます(表I-5-2)。

表 I-5-2 りんどうの出荷量及び単価

単位:千本(円/本)

	県名	年計			5月		6月		7月		8月		9月	
		数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	岩手	15,016	70.0%	49	1	106	99	73	2,324	40	5,170	50	5,311	53
2位	秋田	2,575	12.0%	49	0	-	31	71	805	35	843	51	590	61
3位	山形	2,229	10.4%	54	0	-	2	68	363	34	721	52	616	67
4位	栃木	599	2.8%	64	18	87	294	67	237	58	14	53	11	77
5位	福島	452	2.1%	46	0	-	21	52	148	35	157	47	99	54
	市場計	21,448	100.0%	51	20	88	485	68	3,932	40	7,139	50	6,800	56

資料：東京都中央卸売市場統計情報

② 小ぎく

本県の出荷量は、290万5,000本と全国第4位で、出荷割合は5.1%となっています。

最も出荷量の多い月は9月の111万2,000本で、8月から9月にかけて本県の年間出荷量の71.6%を占めています。

また、単価をみると、年間を通して概ね市場平均価格を上回っています(表I-5-3)。

表 I-5-3 小ぎくの出荷量及び単価

単位:千本(円/本)

	県名	年計			6月		7月		8月		9月		10月	
		数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	沖縄	26,818	47.4%	34	993	34	136	38	151	25	72	43	42	38
2位	茨城	10,896	19.3%	41	1,234	43	2,625	38	2,700	43	2,638	42	1,139	39
3位	福島	5,174	9.1%	47	75	49	1,077	41	1,312	50	2,051	50	430	44
4位	岩手	2,905	5.1%	47	8	57	535	37	979	49	1,102	48	223	50
5位	秋田	2,795	4.9%	47	1	61	471	37	1,171	49	765	51	335	46
	市場計	56,551	100.0%	39	3,331	39	6,467	39	7,657	46	7,950	47	2,812	43

資料：東京都中央卸売市場統計情報

2 小麦・大豆

(1) 小麦

－水田への作付けが55%－

令和元年産小麦の全国の作付面積は、212千ha（前年度212千ha）で、そのうち水田への作付けが116千haであり、55%となっています（表I-2-1）。

表I-2-1 小麦の作付動向（全国）

単位：千ha

年次	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産
作付面積	210	213	213	214	212	212	212
うち水田	112	114	115	117	116	116	116
うち畑	98	99	98	97	97	96	96

資料：農林水産省 作物統計

令和元年産小麦の全国の収穫量は、1,037千トン（前年比114%）、作況指数は123%となっています。

地域別の収穫量をみると、北海道が678千トンで、全体の65%を占め、以下、九州・沖縄、関東・東山の順となっています（表I-2-2）。

表I-2-2 地域別小麦の作付面積と収穫量

	27年産		28年産		29年産		30年産		令和元年産	
	作付面積 (千ha)	収穫量 (千トン)	作付面積 (千ha)	収穫量 (千トン)	作付面積 (千ha)	収穫量 (千トン)	作付面積 (千ha)	収穫量 (千トン)	作付面積 (千ha)	収穫量 (千トン)
北海道	122.6	731.0	122.9	524.3	121.4	471.1	121.6	607.6	121.4	677.7
東北	7.0	16.3	6.9	18.3	6.6	12.6	7.0	17.3	6.4	18.5
関東・東山	20.8	79.6	21.0	75.4	20.9	74.2	21.1	80.4	20.8	81.0
北陸	0.2	0.3	0.3	0.8	0.4	0.7	0.4	0.9	0.4	0.7
東海	15.9	47.8	16.0	50.0	15.5	52.8	15.9	56.6	16.0	68.6
近畿	9.4	21.9	9.4	21.3	9.0	23.2	9.3	22.4	8.4	26.1
中国	2.0	5.1	2.2	4.7	2.4	6.8	2.3	6.8	2.5	9.8
四国	1.9	5.5	1.9	5.4	2.2	6.9	2.1	7.4	2.3	9.9
九州・沖縄	33.3	96.7	33.8	90.7	33.4	116.6	32.7	107.3	33.4	144.7
全国	213.1	1,004.2	214.4	790.8	211.9	764.9	212.3	906.7	211.6	1,037.0

資料：農林水産省 作物統計（東山は、山梨県と長野県）

－全国の需要量は、減少傾向－

小麦の総需要量（国内消費仕向量）は、減少傾向にあります。

令和元年度の総需要量は6,323千トンで、総供給量は6,349千トン（国内生産量1,037千トン、輸入量5,312千トン）でした。

令和元年度の国内での小麦の流通は、外麦買入及び民間流通により、5,225千トンが食料用として、630千トンが飼料用として流通しています（表I-2-3）。

国内産麦は、主食用として小麦粉などに加工されています。

表 I-2-3 小麦の需給状況

単位：千トン

年次	国内生産量	輸 入 量	国内消費仕向量		
			(総需要量)	うち飼料用	うち粗食料
27年度	1,004	5,660	6,583	780	5,340
28年度	791	5,624	6,621	801	5,362
29年度	907	5,939	6,577	735	5,376
30年度	765	5,638	6,510	803	5,227
令和元年度	1,037	5,312	6,323	630	5,225

資料：農林水産省 食料需給表（年度）

—県産小麦の生産量は前年比 156%—

令和元年産の県産小麦は、作付面積が前年とほぼ同じ、3,760ha（前年比 98%）となりました。

10a 当たり収量は、266kg/10a と前年産を大きく上回り、生産量は 10,000 トン（前年比 156%）となりました（表 I-2-4）。

令和元年産の作付面積の最も大きい品種は、「ゆきちから」で 2,053ha（54.6%）、続いて「ナンブコムギ」が 1,230ha（32.7%）、「銀河のちから」が 396ha（10.5%）、「もち姫」が 37ha（1.0%）、「その他」45ha（1.2%）となっており、ゆきちからの作付面積が増加傾向にあります（表 I-2-5）。

表 I-2-4 県産小麦の生産・集荷の推移

	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産
作付面積 (ha)	3,860	3,900	3,860	4,020	3,830	3,760
収穫量 (t)	6,370	7,290	8,450	8,160	6,400	10,000
単収 (kg/10a)	165	187	219	203	167	266
(単収全国比)	41.1	39.7	59.3	47.5	46.3	54.3

資料：農林水産省 作物統計

*10a 当たり平均収量：過去7カ年のうち、最高及び最低を除いた5カ年の平均値

表 I-2-5 令和元年産小麦の県内作付け状況

品種名	作付面積 (ha)	作付割合 (%)
ナンブコムギ	1,230	32.7%
ゆきちから	2,053	54.6%
ネバリゴシ	25	0.7%
銀河のちから	396	10.5%
もち姫	37	1.0%
ゆきはるか	9	0.2%
キタカミコムギ	5	0.1%
ナンブキラリ	6	0.1%
計	3,760	

資料：農産園芸課 国産麦の生産拡大に向けた取組状況等調査

※ アローワンス

小麦の収穫量は天候の影響を受け変動するため、生産者と実需者との間の契約数量に一定の幅（アローワンス）が設けられ、アローワンスの範囲であれば、実需者は価格などその他条件については当初契約どおりのまま麦を引きとることとされています。小麦の播種前契約の場合、本県では契約数量の±5%としています。

(2) 大豆

—令和元年産大豆の作付面積は増加、収穫量は減少—

令和元年産大豆の作付面積（全国）は143,500haで、前年産に比べ3,100ha（前年対比98%）減少し、収穫量は、217,800tで、前年産に比べ6,500t（同103%）増加しました。

また、10a当たり収量は、152kg/10aとなり、前年を上回りました（同106%）（表I-2-6）。

表I-2-6 全国の大豆の生産・集荷の推移

	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産
作付面積(ha)	131,600	142,000	150,000	152,000	146,600	143,500
収穫量(トン)	231,800	243,100	238,000	253,000	211,300	217,800
単収(kg/10a)	176	171	159	168	144	152
販売価格(円/60kg)	13,380	10,155	9,364	8,202	9,124	10,346

資料：農林水産省 作物統計 （公財）日本特産農産物協会

注1：販売価格は、入札取引における落札価格（消費税込）

—令和元年産岩手県産大豆は、前年を上回る収穫量—

令和元年産の県産大豆の作付面積は4,290haで、前年産に比べ300ha（前年対比93%）減少しました。

収穫量は6,310tで、前年より70t増加し、単収は147kg/10aと前年を上回りましたが（表I-2-7）、10a当たり平均収量*（131kg/10a）は、全国を下回っています。

表I-2-7 県産大豆の生産・集荷の推移

	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年産
作付面積(ha)	4,020	4,260	4,550	4,640	4,590	4,290
収穫量(t)	5,470	6,520	6,680	5,380	6,240	6,310
単収(kg/10a)	136	153	147	116	136	147
(単収全国比)	77.3	89.5	92.5	69.0	94.4	96.7

資料：農林水産省 作物統計

*10a当たり平均収量：過去7カ年のうち、最高及び最低を除いた5カ年の平均値

3 野菜

(1) 出荷動向

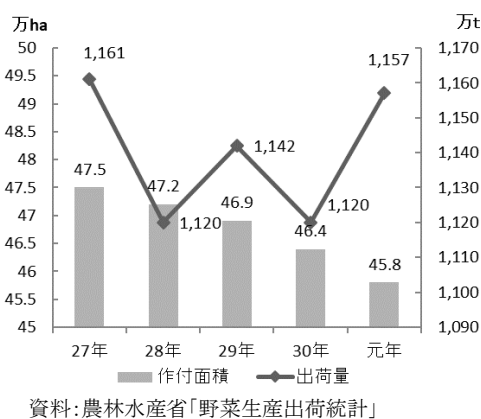
ア 全国

一 国産野菜の作付面積・出荷量は増加一

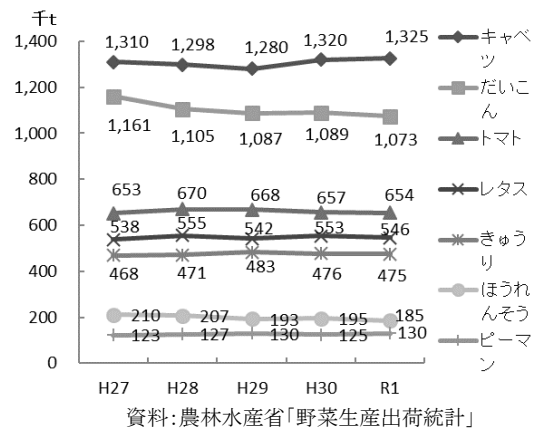
令和元年産国産野菜（41品目）の作付面積は、45万7,900ha（前年比98.7%）と、前年より6,200ha減少し、出荷量は、1,157万トン（前年比103.4%）と、前年より33万7,000トン増加しています（図I-3-1）。

主な品目の出荷量は、キャベツ132万5,000トン（前年比100.5%）、だいこん107万3,000トン（前年比98.5%）、トマト65万3,800トン（前年比99.5%）、レタス54万5,600トン（前年比98.6%）、きゅうり47万4,700トン（前年比99.7%）、となっています（図I-3-2）。

図I-3-1 野菜の作付面積及び出荷量の推移（全国）



図I-3-2 主要野菜の出荷量の推移（全国）



イ 県内

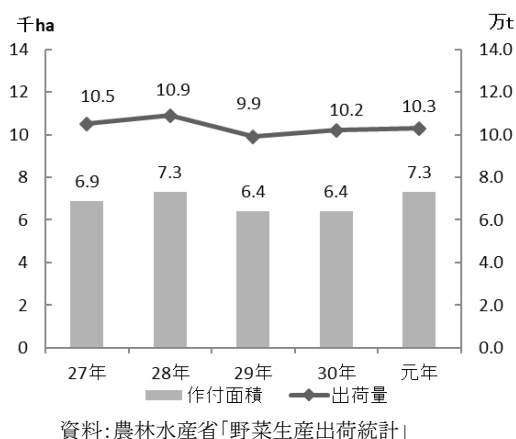
一 県産野菜の作付面積は減少、出荷量は増加一

令和元年産県産野菜（41品目）の作付面積は、7,290ha（平成28年比100.0%※）、出荷量は、10万2,705トン（平成28年比94.7%）と5,795トン減少しています（図I-3-3）。

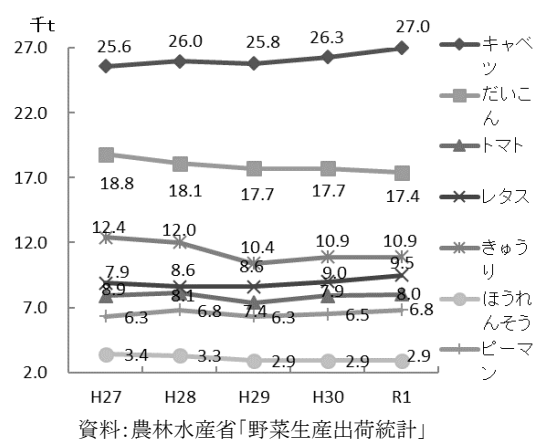
※ 平成30年産においては、かぶ・こまつな・ちんげんさい・ごぼう・れんこん・ばれいしょ・みつば・みずな・セルリー・カリフラワー・にら・たまねぎ・かぼちゃ・グリーンピース・そらまめ・しょうが・いちご・メロン・すいかのデータは主要産地のみで、岩手県のデータがない。

主な品目の出荷量は、キャベツ2万7,000トン（前年比102.7%）、だいこん1万7,400トン（前年比98.3%）、きゅうり1万900トン（前年比100.0%）となっています（図I-3-4）。

図I-3-3 野菜の作付面積及び出荷量（本県）



図I-3-4 主要野菜の出荷量の推移（本県）



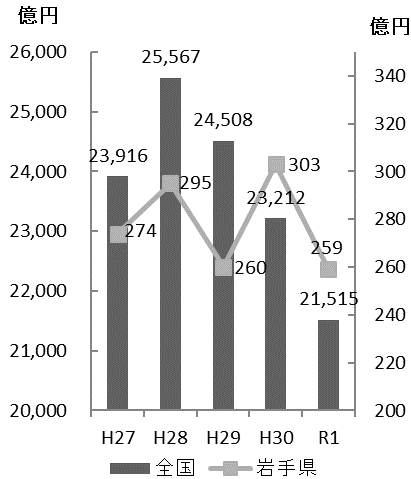
(2) 野菜の生産額

ー野菜産出額は全国減少、本県減少ー

令和元年の全国の野菜産出額は、2兆 1,515 億円（前年比 92.7%）と前年より 1,079 億円減少しています。うち、本県は 259 億円（前年比 85.5%）と前年より 44 億円減少しています（図 I-3-5）。

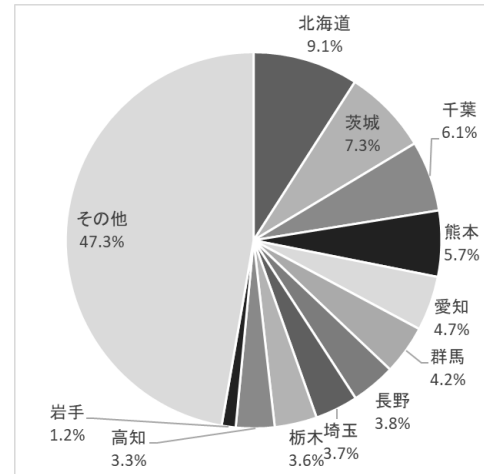
都道府県別の産出額割合をみると、本県は 1.2%となっています（図 I-3-6）。

図 I-3-5 野菜産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図 I-3-6 野菜産出額の構成割合（令和元年度）



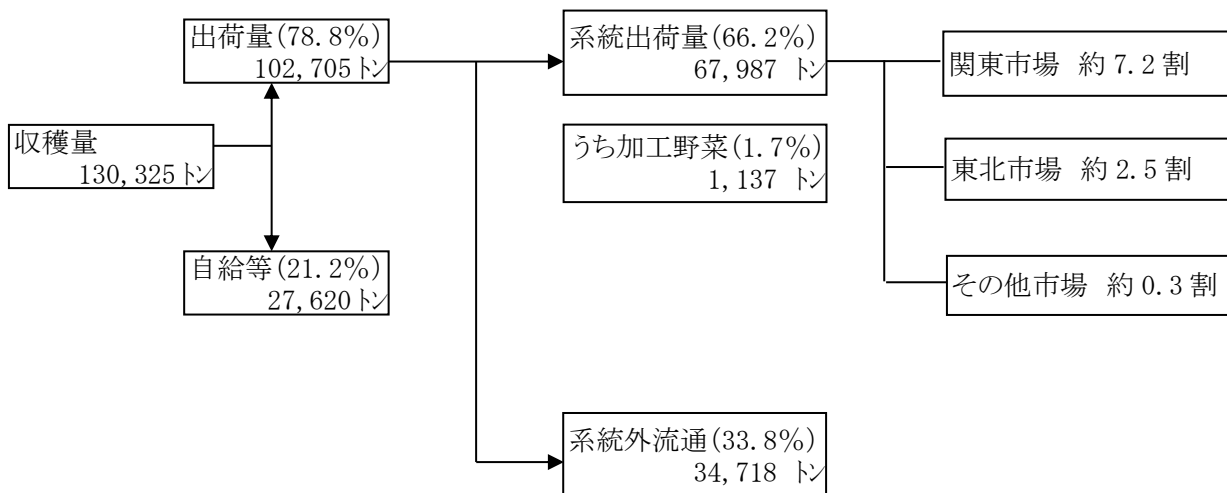
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(3) 本県野菜の流通状況

ー野菜出荷量の約7割が系統出荷ー

令和元年産野菜の流通状況をみると、県内で生産された野菜のうち 78.8%（10 万 2,705 トン）が出荷されており、そのうち 66.2%が系統出荷となっています（図 I-3-7）。

図 I-3-7 県産野菜の流通状況（令和元年度）



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」、JA 全農いわて聞き取り

(4) 東京都中央卸売市場における本県主要野菜の取扱状況

ア 入荷動向

東京都中央卸売市場における野菜の取扱数量をみると、令和2年産の主要野菜計は146万9,865トン(前年産対比97.8%)で、前年をやや下回っています。

全国に占める本県の割合をみると、品目ごとに割合は異なっていますが、ピーマンでは14.3%、きゅうりでは5.2%となっています(表I-3-1)。

表I-3-1 東京都中央卸売市場における主要野菜の取扱数量

単位:トン

	H28年		H29年		H30年		R元年		R2年	
	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産
だいこん	131,282	1,035 (0.8%)	125,283	745 (0.6%)	119,436	1,521 (1.3%)	118,030	1,599 (1.4%)	112,543	1,206 (1.1%)
キャベツ	190,604	25,471 (13.4%)	190,136	8,356 (4.4%)	199,737	8,070 (4.0%)	197,425	9,665 (4.9%)	193,942	9,706 (5.0%)
レタス	99,963	845 (0.8%)	74,751	449 (0.6%)	77,452	322 (0.4%)	75,126	325 (0.4%)	71,784	189 (0.3%)
ほうれんそう	15,236	757 (5.0%)	14,203	669 (4.7%)	15,050	552 (3.7%)	14,404	516 (3.6%)	15,731	374 (2.4%)
ねぎ	53,217	958 (1.8%)	52,315	835 (1.6%)	52,519	1,007 (1.9%)	53,039	928 (1.7%)	49,797	997 (2.0%)
きゅうり	78,592	3,862 (4.9%)	77,463	4,058 (5.2%)	75,068	3,943 (5.3%)	75,392	4,426 (5.9%)	76,051	3,965 (5.2%)
トマト	86,034	2,560 (3.0%)	85,058	2,503 (2.9%)	81,827	2,647 (3.2%)	80,740	2,726 (3.4%)	78,655	2,534 (3.2%)
ピーマン	21,120	3,096 (12.8%)	23,724	2,827 (11.9%)	23,445	2,935 (12.5%)	24,267	3,288 (13.5%)	25,480	3,653 (14.3%)
スイートコーン	14,160	313 (2.2%)	15,072	265 (1.8%)	13,506	214 (1.6%)	13,916	290 (2.1%)	14,000	173 (1.2%)
主要野菜計	1,526,415	25,471 (1.7%)	1,528,439	25,303 (1.7%)	1,501,497	25,548 (1.7%)	1,503,623	28,532 (1.9%)	1,469,865	26,595 (1.8%)

資料：東京都中央卸売市場統計情報/品目別取扱実績

イ 令和2年年産品目別の状況

① ほうれんそう

東京都中央卸売市場における本県の出荷量は、374トンと全国第7位で、出荷割合は2.4%となっています。最も出荷量の多い月は6月の76トンで、本県の年間出荷量の20.3%を占めています。

また、単価をみると、全体的に市場平均価格よりも高く取引されています(表I-3-2)。

表I-3-2 ほうれんそうの出荷量及び単価

単位:トン

	県名	年計			5月		6月		7月		8月		9月	
		数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	群馬	5,779	36.7%	505	583	406	448	460	287	712	212	811	263	922
2位	茨城	4,991	31.7%	479	580	424	402	483	248	621	121	723	91	842
3位	栃木	1,593	10.1%	627	32	544	208	586	206	768	197	850	164	939
4位	埼玉	1,081	6.9%	484	118	400	42	447	14	624	4	798	7	853
7位	岩手	374	2.4%	679	65	527	76	559	52	758	38	895	36	975
	市場計	15,731	100.0%	514	1,526	427	1,283	503	914	714	678	828	651	929

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報/産地別取扱実績

② ピーマン

東京都中央卸売市場における本県の出荷量は、3,653トンと全国第3位で、出荷割合は14.3%となっています。最も出荷量の多い月は8月の1,337トンで、本県の年間出荷量の36.6%を占めています。

また、単価をみると、6、7月は市場平均価格よりも高く取引されているものの、8月以降は市場平均価格を下回っています(表I-3-3)。

表I-3-3 ピーマンの出荷量及び単価

単位:トン

	県名	年計			6月		7月		8月		9月		10月	
		数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	茨城	10,983	43.1%	524	1,956	493	1,047	553	509	491	888	468	988	619
2位	宮崎	5,097	20.0%	577	164	465	73	811	32	788	3	806	79	695
3位	岩手	3,653	14.3%	473	115	622	554	667	1,337	452	1,077	401	499	450
4位	高知	2,500	9.8%	558	178	429	22	669	18	633	13	627	73	676
5位	鹿児島	1,346	5.3%	521	9	361	1	514	0	720	0	1,382	14	688
	市場計	25,480	100.0%	527	2,482	492	1,970	607	2,543	468	2,476	428	1,898	559

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

③ キャベツ

東京都中央卸売市場における本県の出荷量は、9,706 トンと全国第6位で、出荷割合は5.0%となっています。最も出荷量の多い月は8月の2,562 トンで、本県の年間出荷量の26.4%を占めています。

また、単価をみると、年間を通じて市場平均価格よりも低く取引されています。(表I-3-4)。

表I-3-4 キャベツの出荷量及び単価

単位：トン

	年計				6月		7月		8月		9月		10月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	群馬	48,589	25.1%	117	2,210	109	11,405	100	11,467	166	11,724	119	10,539	89
2位	愛知	44,408	22.9%	81	719	108	48	102	6	139	1	160	205	77
3位	千葉	43,467	22.4%	89	8,154	85	460	66	84	167	118	137	1,587	86
4位	神奈川	22,538	11.6%	112	659	78	2	59	0	266	0	498	159	79
6位	岩手	9,706	5.0%	79	156	84	2,411	63	2,562	127	2,076	96	2,402	82
	市場計	193,942	100.0%	99	16,917	90	16,749	99	15,510	166	15,430	120	17,755	90

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

④ きゅうり

東京都中央卸売市場における本県の出荷量は、3,965 トンと全国第7位で、出荷割合は5.2%となっています。最も出荷量の多い月は8月の1,943 トンで、本県の年間出荷量の49.0%を占めています。

また、単価は市場平均価格をやや上回っています(表I-3-5)。

表I-3-5 きゅうりの出荷量及び単価

単位：トン

	年計				7月		8月		9月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	群馬	13,609	17.9%	325	494	333	302	380	1,116	393
2位	埼玉	11,044	14.5%	323	274	324	76	333	701	386
3位	福島	10,815	14.2%	380	2,682	404	3,677	391	2,067	356
4位	宮崎	9,918	13.0%	354	8	526	0	347	1	548
7位	岩手	3,965	5.2%	346	883	396	1,943	350	911	290
	市場計	76,051	100.0%	336	6,625	380	8,660	371	7,161	346

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

4 果実

(1) 出荷動向（総論）

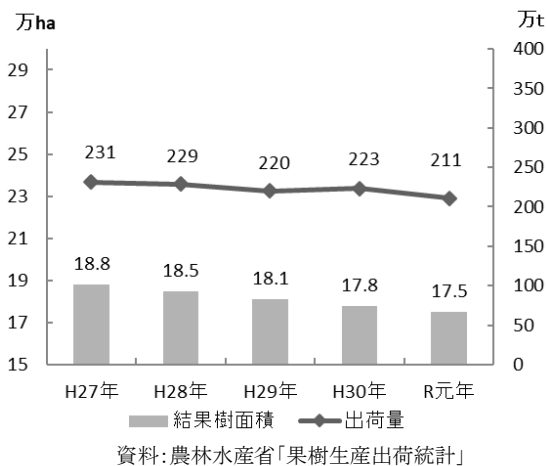
ア 全国

—国産果実の結果樹面積、総出荷数量はともに減少—

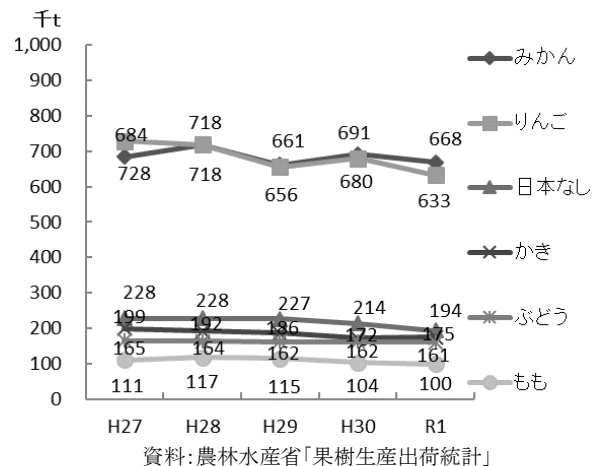
令和元年産国産果実の結果樹面積は、17万5,000ha(前年比98.4%)と、前年より2,800ha減少し、出荷量は、210万9,000トン(前年比94.9%)と、前年より11万3,700トン減少しています(図I-4-1)。

品目別の出荷量は図I-4-2のとおりです。

図I-4-1 果実の結果樹面積及び出荷量の推移(全国)



図I-4-2 主要果実の出荷量の推移(全国)



イ 県内

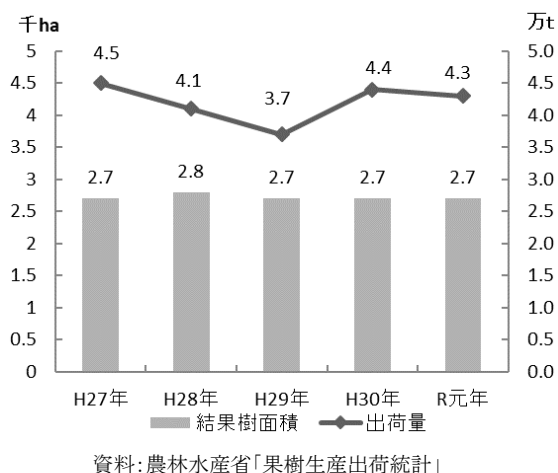
—県産果実の結果樹面積、総出荷数量はともに減少—

令和元年産県産果実の結果樹面積は、2,673ha(前年比99.2%)で、総出荷量は4万2,610トン(前年比97.6%)と前年より1,040トン減少しています(図I-4-3)。

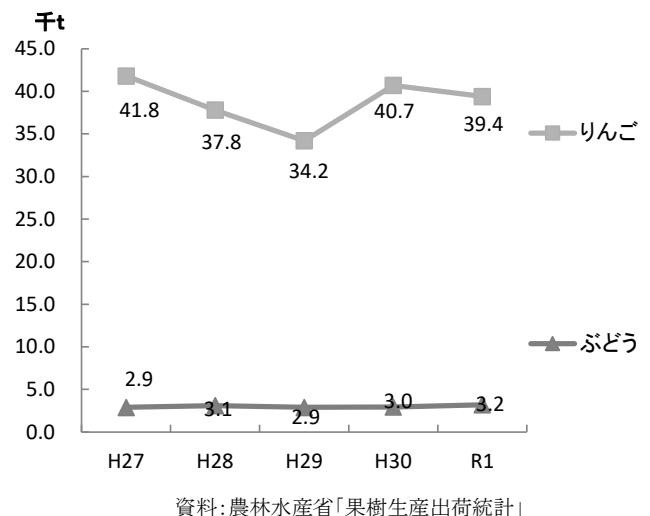
※ 令和元年産においては、日本なし・西洋なし・かき・もも・すもも・おうとう・うめ・くり・キウイフルーツのデータなし。

品目別の出荷量をみると、品目により増減が異なります(図I-4-4)。

図I-4-3 果実の結果樹面積及び出荷量の推移(本県)



図I-4-4 主要果実の出荷量の推移(本県)



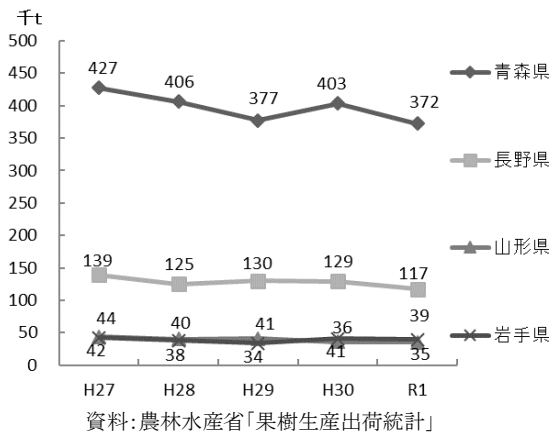
(2) りんごの出荷動向

ア 出荷量の推移・県別出荷割合

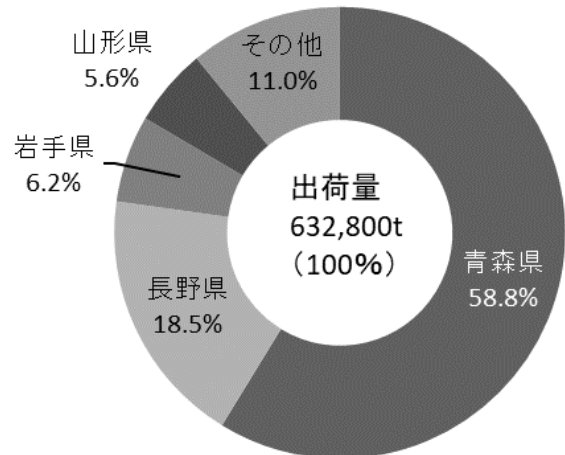
一本県の出荷量は、全国で第3位

令和元年産りんごにおいて、本県の出荷量は全国で第3位となっています（図I-4-5）。都道府県別の出荷割合をみると、6.2%（対前年値+0.2ポイント）を占めています（図I-4-6）。

図I-4-5 りんごの出荷量の推移
(主産県)



図I-4-6 りんごの都道府県別出荷割合(令和元年産)



イ 品種別出荷割合の推移

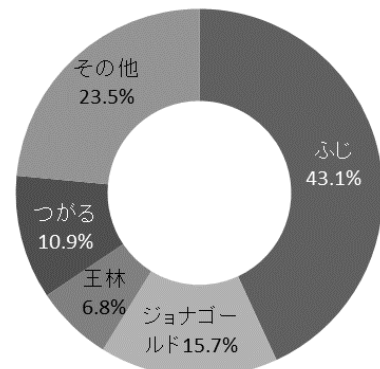
本県における品種別の出荷割合をみると、ふじの割合が高く、全国と比較すると、ジョナゴールドの割合が高いのが特徴となっています（表I-4-7、図I-4-8）。

表I-4-7 りんごの品種別出荷割合の推移

品種		H27	H28	H29	H30	R1
ふじ	全国	53.2	52.7	51.3	51.4	51.1
	岩手	45.5	45.5	44.7	41.6	43.1
ジョナゴールド	全国	7.0	7.2	7.1	6.9	6.8
	岩手	17.5	17.5	17.5	15.3	15.7
王林	全国	7.5	7.3	7.8	7.7	7.6
	岩手	7.1	6.7	7.0	6.6	6.8
つがる	全国	10.9	10.2	11.2	12.5	12.5
	岩手	10.3	10.2	10.5	10.5	10.9

資料:農林水産省「果樹生産出荷統計」

図I-4-8 本県の品種別出荷割合(令和元年産)

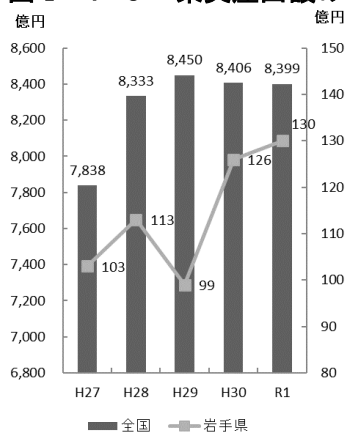


(3) 果実の生産額

令和元年度の全国の果実産出額は、8,399億円（前年比99.9%）で、うち本県は130億円（前年比103.2%）となっています（図I-4-9）。

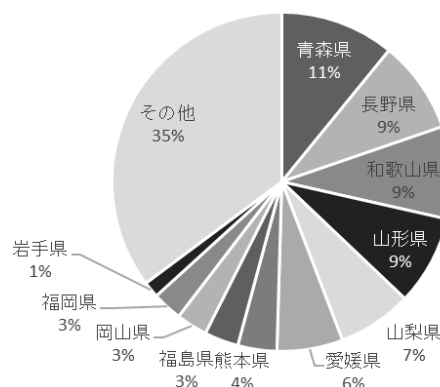
都道府県別の産出額割合をみると、本県は1.5%（対前年値+0.3ポイント）を占めています（図I-4-10）。

図 I-4-9 果実産出額の推移



資料:農林水産省「生産農業所得統計」

図 I-4-10 果実産出額の構成割合 (令和元年度)



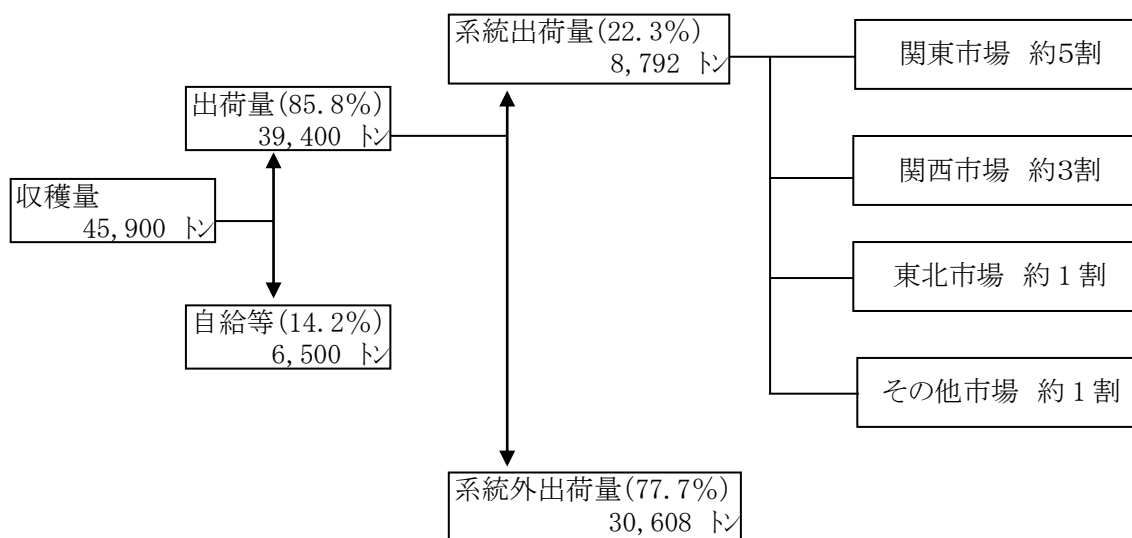
資料:農林水産省「生産農業所得統計」

(4) 県産りんごの流通状況

—出荷量の約3割が系統出荷—

令和元年度に県内で生産されたりんごのうち 85.8%の 39,400 トンが出荷されており、そのうち 24.9%が系統出荷となっています。(図 I-4-10)。

図 I-4-10 県産りんごの流通状況 (令和元年度)



資料:「果樹生産出荷統計」、JA 全農いわて聞き取り

(5) 東京都中央卸売市場におけるりんごの取扱状況

ア 入荷動向

東京都中央卸売市場における本県の令和2年産のりんごの取扱数量は、2,573 トン（前年比108.2%）で、前年に比べて194 トン増加しています。

全国に占める本県産の割合をみると、りんご類では4.2%で、前年に比べて0.3ポイント上昇しています（表I-4-2）。

表I-4-2 東京都中央卸売市場における主要果実の取扱数量

単位：トン

	28年		29年		30年		令和元年		令和2年	
	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産
■りんご類	64,870	2,252 (3.5%)	66,387	2,187 (3.3%)	59,540	2,734 (4.6%)	61,485	2,379 (3.9%)	61,576	2,573 (4.2%)
つがる	5,870	240 (4.1%)	5,958	219 (3.8%)	5,254	281 (5.3%)	5,228	256 (4.9%)	5,190	170 (3.3%)
ジョナゴールド	2,730	447 (16.4%)	3,039	493 (16.2%)	2,588	424 (16.4%)	2,180	394 (18.1%)	1,979	397 (20.0%)
ふじ	38,672	904 (2.3%)	40,086	815 (2.0%)	35,605	1,109 (3.1%)	37,792	903 (2.4%)	35,353	1,072 (3.0%)
王林	3,688	77 (2.1%)	3,590	96 (2.7%)	2,796	79 (2.8%)	2,622	65 (2.5%)	2,938	72 (2.4%)
■ぶどう類	14,986	0 (0.00%)	14,427	0 (0.00%)	14,163	1 (0.01%)	14,072	0 (0.00%)	13,417	0.3 (0.0%)
■西洋なし類	3,343	17 (0.5%)	2,958	20 (0.7%)	2,614	9 (0.3%)	2,955	18 (0.6%)	2,626	5 (0.2%)
主要果実計	441,962	2,276 (0.5%)	430,686	2,212 (0.5%)	415,778	2,752 (0.7%)	413,053	2,401 (0.6%)	395,915	2,588 (0.7%)

資料：東京都中央卸売市場統計情報

イ 令和2年産りんごの品種別状況

① りんご類

本県の出荷量は、2,573 トンと全国第4位で、出荷割合は4.2%となっています。

最も出荷量の多い月は12月の751 トンで、本県の年間出荷量の29.2%を占めています。

また、平均単価をみると、10月を除き市場平均を上回っています（表I-4-3）。

表I-4-3 りんご類の出荷量及び単価

単位：トン

	年計				9月		10月		11月		12月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	青森	47,145	76.6%	345	3,375	332	4,814	294	3,917	277	4,265	337
2位	長野	5,783	9.4%	347	590	370	1,938	336	1,628	321	546	270
3位	山形	4,593	7.5%	253	429	270	1,176	270	1,525	249	808	185
4位	岩手	2,573	4.2%	335	367	333	461	291	693	298	751	391
5位	秋田	704	1.1%	247	12	251	112	245	116	289	170	241
	市場計	61,576	100%	336	4,806	331	8,629	299	8,125	281	6,624	315

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

② つがる

本県の出荷量は、170 トンと全国第4位で、出荷割合は3.3%となっています。

最も出荷量の多い月は9月の294 トンで、本県の年間出荷量の93%を占めています。

また、平均単価をみると、全国市場平均を下回っています（表I-4-4）。

表I-4-4 つがるの出荷量及び単価

単位：トン

	年計				8月		9月		10月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	青森	3,441	66.3%	328	128	488	2,566	338	745	266
2位	長野	955	18.4%	414	586	452	364	353	3	284
3位	山形	538	10.4%	288	241	340	294	248	3	121
4位	岩手	170	3.3%	312	0	-	294	314	15	296
5位	山梨	35	0.7%	476	35	476	0	-	0	-
	市場計	5,190	100%	340	1,006	429	3,412	330	767	266

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

③ ジョナゴールド

本県の出荷量は、397 トンと全国第2位で、出荷割合は20.1%となっています。

最も出荷量の多い月は10月の247トンで、本県の年間出荷量の62.2%を占めています。

また、平均単価をみると、出荷の多い10月は、全国市場平均を上回っています(表I-4-5)。

表I-4-5 ジョナゴールドの出荷量及び単価

単位：トン

	年計				9月		10月		11月		12月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	青森	1,573	79.5%	393	0	-	13	265	102	282	140	347
2位	岩手	397	20.1%	267	0	-	247	272	150	258	0	-
3位	山形	5	0.3%	175	0	-	3.7	185	1.4	148	0	-
	市場計	1,979		367	0	-	267	265	253	282	141	347

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

④ ふじ

本県の出荷量は、1,072 トンと全国第4位で、出荷割合は3.0%となっています。

最も出荷量の多い月は12月の600トンで、本県の年間出荷量の56%を占めています。

また、平均単価をみると、11月から12月までは全国市場平均を上回っているものの、1月からは全国市場平均を下回っています(表I-4-6)。

表I-4-6 ふじの出荷量及び単価

単位：トン

	年計				9月		10月		11月		12月		1月		2月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	青森	29,030,768	82.1%	358	8,272	450	96,218	316	951,204	333	3,193,487	332	4,477,545	301	5,672,787	273
2位	山形	2,606,442	7.4%	235	2,356	354	77,416	301	1,377,076	250	779,193	181	120,443	228	84,106	257
3位	長野	1,871,859	5.3%	305	0	-	252	311	1,199,324	331	494,375	270	77,509	226	42,938	215
4位	岩手	1,072,182	3.0%	315	0	-	0	-	343,271	334	600,409	316	113,792	274	14,710	195
5位	秋田	438,252	1.2%	237	0	-	1,110	157	50,365	256	125,640	238	142,852	249	95,425	213
	市場計	35,353,177	100.0%	342	11,548	424	182,111	308	4,134,727	299	5,273,264	298	4,944,671	296	5,922,063	271

注：単価はkg当たりの卸売平均価格 資料：東京都中央卸売市場統計情報

5 花き

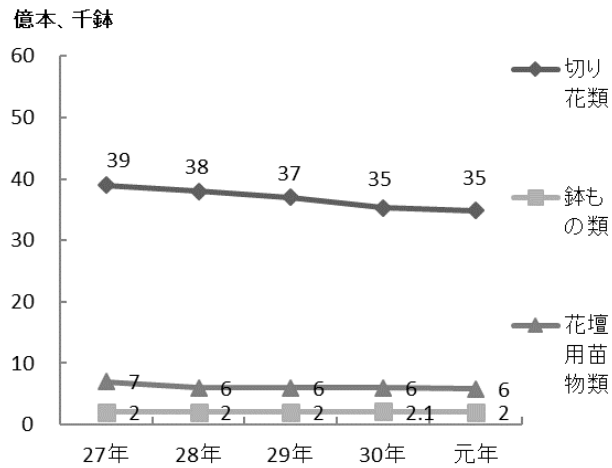
(1) 出荷動向（令和元年実績）

ア 全国

－出荷量は、減少傾向で推移－

令和元年産国産花きの出荷量は、切り花類 34 億 8,200 万本 35 億 3,400 万本(前年比 98.5%)、鉢ものの類 2 億 500 万鉢(前年比 99.1%)、花壇用苗もの類 5 億 7,900 万本(前年比 113.6%)で、生産者の高齢化に伴う規模縮小等により、近年、減少傾向で推移しています（図 I-5-1）。

図 I-5-1 全国の出荷量の推移（全国）



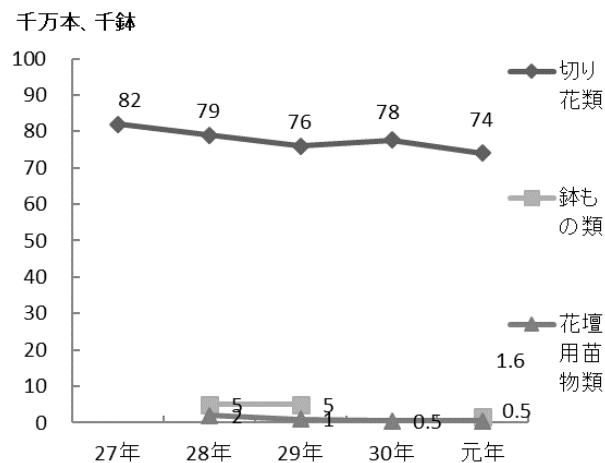
資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

イ 県内

－切り花類の出荷量は、伸び悩みの傾向－

令和元年産県産花きの出荷量は、切り花類 7,410 万本(前年比 95.5%)で、近年、減少傾向で推移しています（図 I-5-2）。

図 I-5-2 本県の出荷量の推移（本県）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」

※「花壇用苗物類」、「鉢ものの類」のうち、H27・30 は本県調査対象外につきデータなし

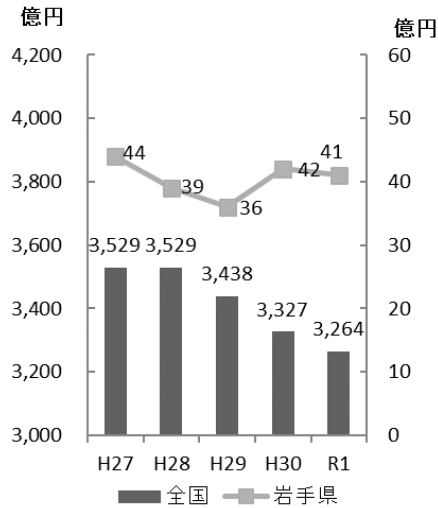
(2) 花き産出額

－花きの産出額は減少－

令和元年度の全国の花き産出額は、3,264 億円（前年比 98.1%）、うち本県は 41 億円（前年比 97.6%）となっています（図 I-5-3）。

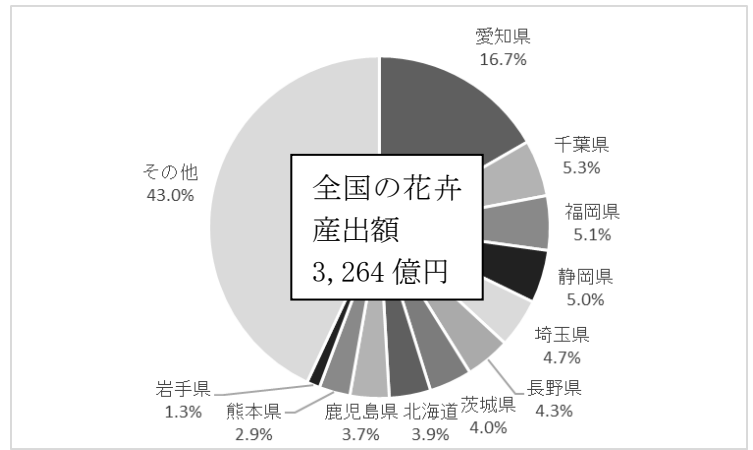
都道府県別の産出額をみると、本県は 1.3%を占めています（図 I-5-4）。

図 I-5-3 花き産出額の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

図 I-5-4 都道府県別の花き産出額の割合



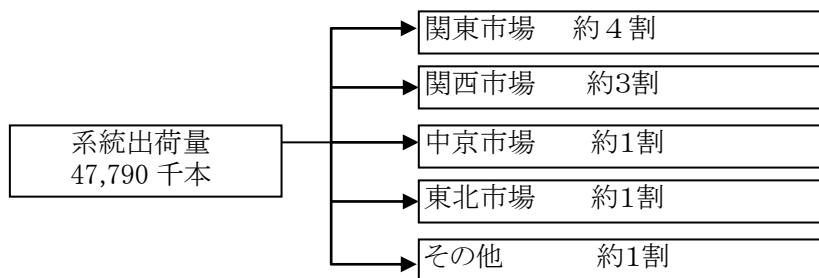
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

(3) 県産りんどうの流通状況

－関東市場への出荷割合は約 4 割－

令和元年産りんどうの流通状況をみると、系統出荷量のうち関東市場に最も多い約 4 割、次いで関西市場約 3 割となっています（図 I-5-5）。

図 I-5-5 県産りんどうの流通状況（令和元年産）



資料：農林水産省「花き生産出荷統計」、JA全農いわて聞き取り

(4) 東京都中央卸売市場における取扱状況等

ア 入荷動向

－花きの出荷は、減少傾向で推移－

東京都中央卸売市場における花きの取扱数量をみると、全国的に減少傾向にあります。

全国に占める本県産花きの割合をみると、切り花は平成 25 年度以降、概ね増加傾向にあったものの、平成 28 年度からは減少しています（表 I-5-1）。

表 I-5-1 東京都中央卸売市場における主要花きの取扱数量

単位:千本、千鉢、千箱

	28年		29年		30年		令和元年		令和2年	
	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産	全国	県産
■切り花計	886,201	24,612 (2.8%)	864,474	21,249 (2.5%)	846,078	20,330 (2.4%)	826,185	20,424 (2.4%)	754,207	20,185 (2.7%)
りんどう	24,281	16,124 (66.4%)	21,833	13,873 (63.5%)	22,722	14,376 (63.3%)	22,663	14,883 (65.7%)	21,448	15,016 (70.0%)
小ぎく	64,976	5,120 (7.9%)	66,157	4,672 (7.0%)	59,980	3,696 (6.2%)	60,709	3,192 (5.3%)	56,551	2,905 (5.1%)
ゆり類	27,919	338 (1.2%)	26,575	271 (1.0%)	26,279	338 (1.3%)	25,517	436 (1.7%)	24,006	534 (2.2%)
トルコキョウ類	26,281	195 (0.7%)	25,935	173 (0.7%)	26,746	158 (0.6%)	25,813	173 (0.7%)	22,030	167 (0.8%)
スターチス類	29,154	223 (0.8%)	29,805	186 (0.6%)	30,505	86 (0.3%)	31,718	76 (0.2%)	33,899	73 (0.2%)
ストック類	9,473	68 (0.7%)	10,339	49 (0.5%)	9,816	51 (0.5%)	9,126	32 (0.4%)	8,556	19 (0.2%)
■鉢花類	16,633	246 (1.5%)	15,846	243 (1.5%)	13,935	221 (1.6%)	12,498	192 (1.5%)	11,748	180 (1.5%)
鉢物りんどう	122	84 (68.8%)	103	60 (57.9%)	84	59 (70.2%)	68	51 (75.0%)	73	53 (72.9%)
■花壇苗類	2,799	11 (0.4%)	2,763	10 (0.4%)	2,504	10 (0.4%)	2,578	12 (0.5%)	2,361	11 (0.4%)
パンジー	415	3 (0.7%)	425	2 (0.5%)	383	2 (0.5%)	350	2 (0.5%)	368	2 (0.6%)

資料：東京都中央卸売市場統計情報

イ 令和2年産品目別の状況

① りんどう

本県の出荷量は、1,501万6,000本と全国第1位で、出荷割合は70.0%となっています。

最も出荷量の多い月は9月の531万1,000本で、8月から9月にかけて本県の年間出荷量の69.8%を占めています。

また、出荷割合が全体の約7割を占めることから、単価の面では本県がプライスリーダーになっていると考えられます(表I-5-2)。

表 I-5-2 りんどうの出荷量及び単価

単位:千本(円/本)

	年計				5月		6月		7月		8月		9月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	岩手	15,016	70.0%	49	1	106	99	73	2,324	40	5,170	50	5,311	53
2位	秋田	2,575	12.0%	49	0	-	31	71	805	35	843	51	590	61
3位	山形	2,229	10.4%	54	0	-	2	68	363	34	721	52	616	67
4位	栃木	599	2.8%	64	18	87	294	67	237	58	14	53	11	77
5位	福島	452	2.1%	46	0	-	21	52	148	35	157	47	99	54
	市場計	21,448	100.0%	51	20	88	485	68	3,932	40	7,139	50	6,800	56

資料：東京都中央卸売市場統計情報

② 小ぎく

本県の出荷量は、290万5,000本と全国第4位で、出荷割合は5.1%となっています。

最も出荷量の多い月は9月の111万2,000本で、8月から9月にかけて本県の年間出荷量の71.6%を占めています。

また、単価をみると、年間を通して概ね市場平均価格を上回っています(表I-5-3)。

表 I-5-3 小ぎくの出荷量及び単価

単位:千本(円/本)

	年計				6月		7月		8月		9月		10月	
	県名	数量	割合	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
1位	沖縄	26,818	47.4%	34	993	34	136	38	151	25	72	43	42	38
2位	茨城	10,896	19.3%	41	1,234	43	2,625	38	2,700	43	2,638	42	1,139	39
3位	福島	5,174	9.1%	47	75	49	1,077	41	1,312	50	2,051	50	430	44
4位	岩手	2,905	5.1%	47	8	57	535	37	979	49	1,102	48	223	50
5位	秋田	2,795	4.9%	47	1	61	471	37	1,171	49	765	51	335	46
	市場計	56,551	100.0%	39	3,331	39	6,467	39	7,657	46	7,950	47	2,812	43

資料：東京都中央卸売市場統計情報

6 畜産物

(1) 肉用牛・牛肉

ア 肉用牛の飼養頭数

ー県内の肉用牛の飼養頭数は前年比 103.9%ー

令和2年の全国の肉用牛の飼養頭数は、2,555,000頭で、前年比102.1%となっています。
また、本県の飼養頭数は91,100頭で、前年比103.9%の増となりました（表I-6-1）。

表 I-6-1 肉用牛の飼養動向

(単位：頭)

区分		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全国	飼養頭数	2,479,000	2,499,000	2,514,000	2,503,000	2,555,000
	前年比	99.6%	100.8%	100.6%	99.6%	102.1%
岩手県	飼養頭数	89,600	91,800	90,700	87,700	91,100
	前年比	101.2%	102.5%	98.8%	97.0%	103.9%

資料：畜産統計（農林水産省）

イ 和牛の東京都中央卸売市場への出荷頭数

ー東京都中央卸売市場への県産和牛の出荷頭数は前年比 94.8%ー

令和2年度の東京都中央卸売市場への和牛（乳用種、交雑種を除く肉牛）の出荷頭数は、全体で66,261頭、前年比105.5%となっています。

また、本県からの出荷頭数は4,564頭で、前年比94.8%となっています（表I-6-2）。

表 I-6-2 東京都中央卸売市場への和牛の出荷動向

(単位：頭)

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
市場合計	出荷頭数	64,334	61,728	62,178	62,836	66,261
	前年比	92.0%	95.9%	100.7%	101.0%	105.5%
岩手県	出荷頭数	5,483	4,968	4,874	4,813	4,564
	前年比	93.3%	90.6%	98.1%	98.7%	94.8%

資料：東京都中央卸売市場市場統計情報

ウ 肉牛（和牛、乳用種、交雑種）の出荷・と畜頭数

ー県内と畜割合 38%、県外と畜割合 62%ー

令和2年度における本県の肉牛（和牛、乳用種、交雑種）の出荷・処理状況を見ると、県内から出荷された肉牛29,345頭のうち11,151頭（38%）と、県外から入荷した4,073頭の計15,224頭が、(株)いわちくで処理されています。また、県内から出荷された肉牛のうち、残りの18,194頭（62%）が県外のと畜場に運ばれ、処理されています（図I-6-1）。

図 I-6-1 肉牛（黒毛、短角、乳用牛、交雑種等）の出荷・処理状況（令和2年）



資料：牛肉の放射線物質検査実績（流通課調べ）、(株)いわちく総会資料より

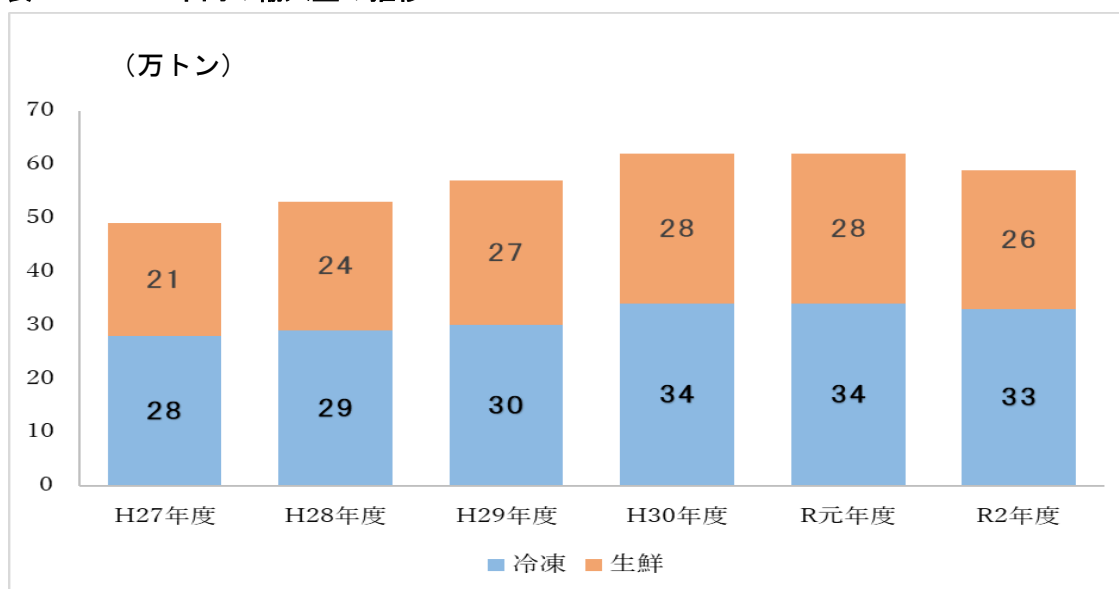
エ 牛肉の輸入量の推移

－牛肉の輸入量は59万トン（令和2年度）－

冷蔵品は米国産と豪州産が9割を占めていて、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う北米の現地工場の操業停止などによる生産量の減少、豪州産の干ばつ後の牛群再構築による生産量減少に伴う現地価格の高騰などから輸入量が前年度を下回りました。

冷凍品は、冷蔵品と同様の影響に加え、新型コロナウイルス感染症の影響による外食需要の減少などにより、前年度をやや下回りました（表I-6-3）。

表 I-6-3 牛肉の輸入量の推移



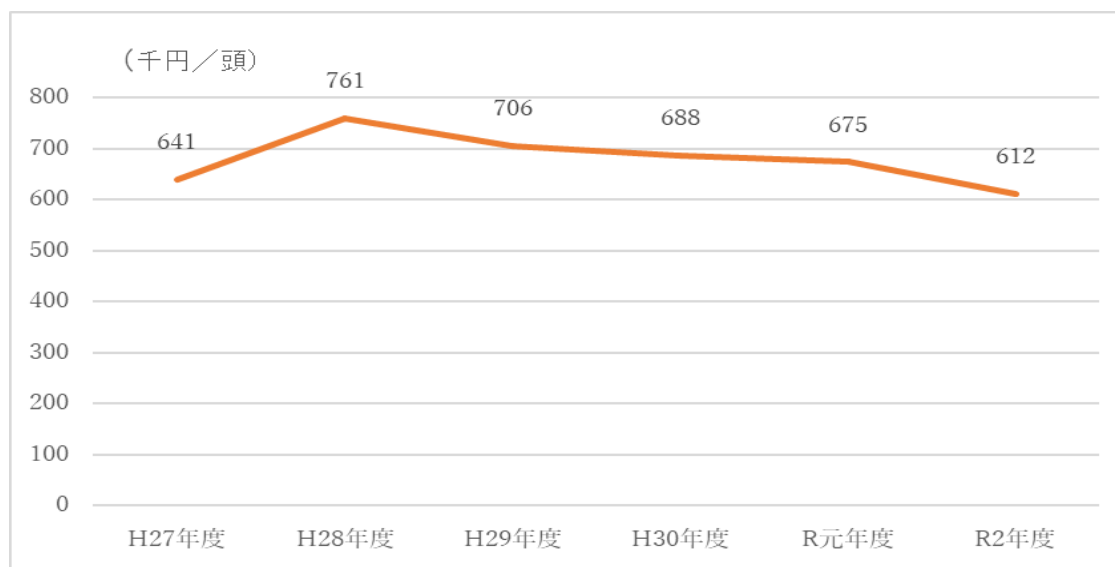
資料：国内統計資料（農畜産業振興機構）

エ 肉用子牛価格の推移

－黒毛和種子牛平均価格は高値で推移－

子牛の市場上場頭数は令和2年度の平均価格（税抜）は612千円で、前年度比91%となりました（図I-6-2）。

図 I-6-2 黒毛和種子牛価格（県内市場）の推移（税抜）



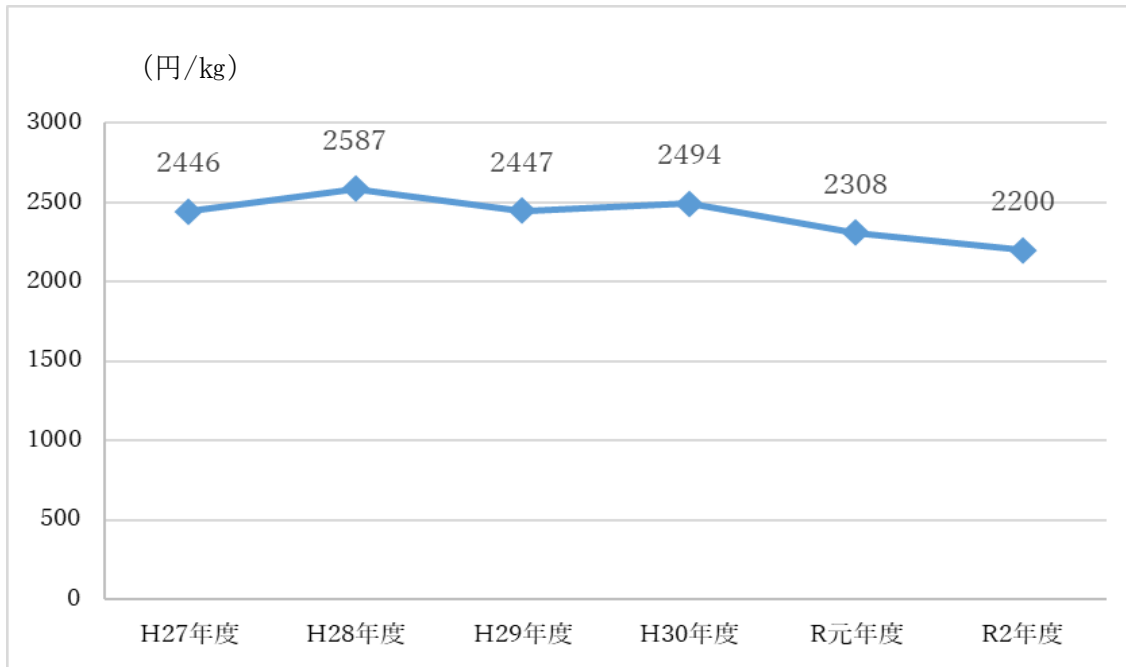
資料：畜産流通関係データ（畜産課）

オ 牛枝肉価格の推移

—令和2年2月以降価格が下落—

出荷制限などの放射性物質の影響により下落した相場は、平成25年度以降は生産量の減少等により、高値で推移してきました。R2年はコロナウイルス感染症の影響による外食需要の減退などにより、価格が大幅に落ち込みました（図I-6-3）。

図I-6-3 牛枝肉価格（東京食肉市場黒毛和種去勢A4）の推移（税込）



資料：国内統計資料（農畜産業振興機構）

(2) 生乳生産量

ア 乳用牛の飼養頭数

—県内の乳用牛の飼養頭数は前年比99.0%—

令和2年の全国の乳用牛の飼養頭数は、1,352,000頭で、前年比101.5%となっています。また、本県の飼養頭数は41,600頭で、前年比99.0%となりました（表I-6-4）。

表I-6-4 乳用牛の飼養動向

（単位：頭）

区分		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
全国	飼養頭数	1,345,000	1,323,000	1,328,000	1,332,000	1,352,000
	前年比	98.1%	98.4%	100.4%	100.3%	101.5%
岩手県	飼養頭数	43,600	42,500	41,900	42,000	41,600
	前年比	98.4%	97.5%	98.6%	100.2%	99.0%

資料：畜産統計（農林水産省）

イ 本県の生乳生産量

—本県の生乳生産量は、全国第4位（令和元年）—

令和元年の全国の生乳生産量は7,313,530トンで、前年比100.3%となっています。また、本県の生乳生産量は211,951トンで、前年比98.7%となっております（表I-6-5）。

表 I-6-5 生乳生産量の推移

(単位：トン)

区分	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	
全国	生産量	7,379,234	7,393,717	7,276,523	7,289,227	7,313,530
	前年比	100.6%	100.2%	98.4%	100.1%	100.3%
岩手県	生産量	216,036	215,551	218,192	214,776	211,951
	前年比	99.1%	99.8%	101.2%	98.4%	98.7%

資料：牛乳乳製品統計（農林水産省）生乳生産量及び用途別処理量

生乳生産の主要道県の状況を見ると、本県の生乳生産量は全国第4位となっております。

また、処理された生乳のうち乳製品向けは、北海道が 2,939,035 トンと最も多く、次いで熊本県の 57,890 トン、岩手県は 36,258 トンとなっています（表 I-6-6）。

表 I-6-6 生乳生産の主要道県の状況（令和元年）

(単位：トン)

区分	生産量	移出量	移入量	処理量	処理量の内訳	
					牛乳等向け	乳製品向け
北海道	4,048,197	529,547	-	3,518,650	556,498	2,939,035
栃木県	330,598	179,591	8,151	159,158	156,902	706
熊本県	252,941	92,297	17,630	178,274	119,669	57,890
岩手県	211,951	93,720	17,747	135,978	98,573	36,258
群馬県	207,902	99,777	94,514	202,639	186,627	15,033
千葉県	192,495	79,757	66,017	178,755	176,807	721
茨城県	172,438	32,853	129,675	269,260	222,849	43,150

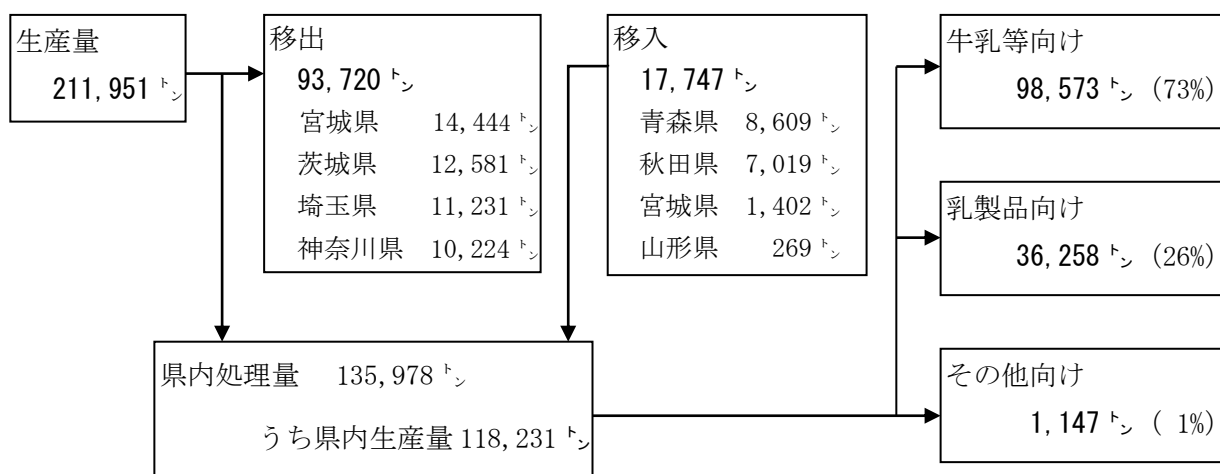
資料：牛乳乳製品統計（農林水産省）

ウ 生乳の流通

一生乳の移出先は宮城県、移入先は青森県が最も多い

令和元年の県内生乳生産量 211,951 トンのうち、93,720 トンが県外に移出されており、最も多い移出先は宮城県で 14,444 トン、一方移入元は青森県が最も多く、8,609 トンとなっています（図 I-6-4）。

図 I-6-4 生乳の流通



資料：牛乳乳製品統計（農林水産省）

(3) 豚

ア 豚の飼養頭数

ー県内の豚の飼養頭数は平成30年比95.6%ー

平成30年の全国の豚の飼養頭数は、9,156,000頭で、平成30年比99.0%となっています。また、本県の飼養頭数は402,400頭で、平成30年比95.6%となりました(表I-6-7)。

表I-6-7 豚の飼養動向

(単位：頭)

区分		平成28年	平成29年	平成30年度	令和元年度
全国	飼養頭数	9,313,000	9,346,000	9,189,000	9,156,000
	前年比	97.7%※	100.4%	98.3%	99.6%
岩手県	飼養頭数	432,100	437,000	420,700	402,400
	前年比	96.0%※	101.1%	96.3%	95.6%

資料：畜産統計（農林水産省）

※ センサス調査年のため、平成27年、令和2年は調査無し。

イ 肉豚の出荷・と畜頭数

ー県内と畜頭数は30万頭で推移ー

令和元年度における本県の肉豚のと畜頭数は309,259頭で、近年概ね30万頭で推移しています(表I-6-8)。

表I-6-8 肉豚のと畜状況

(単位：頭)

区分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全国	16,104,466	16,391,958	16,336,984	16,430,088	16,319,598
岩手県	300,426	300,452	303,860	298,048	309,259

資料：畜産物流通調査（農林水産省）

(4) 鶏肉・鶏卵

ア ブロイラーの飼養羽数

ー県内のブロイラーの飼養羽数は平成30年比96.4%ー

平成30年の全国のブロイラーの飼養羽数は138,228千羽で、前年比99.6%となっています。また、本県の飼養羽数は21,647千羽で、前年比96.4%となっています(表I-6-9)。

表I-6-9 ブロイラーの飼養動向

(単位：千羽)

区分		平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全国	飼養羽数	134,395	134,923	138,776	138,228
	前年比	99.0%※	100.4%	102.9%	99.6%
岩手県	飼養羽数	21,792	22,002	22,442	21,647
	前年比	100.0%※	100.9%	102.0%	96.4%

資料：畜産統計（農林水産省）

※ センサス調査年のため、平成27年、令和2年は調査無し。

イ ブロイラーの出荷羽数

ー本県のブロイラーの出荷羽数は、全国第3位(令和元年)ー

令和元年の全国のブロイラーの出荷羽数は695,335千羽で、平成30年比100.8%となっています。また、本県の出荷羽数は110,797千羽で、平成30年比98.7%となっています(表I-6-9)。

表 I-6-10 ブロイラーの出荷動向 (単位：千羽)

区 分		平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
全国	出荷羽数	667,438	677,713	689,280	695,335
	前年比	102.3%※	101.5%	101.7%	100.8%
岩手県	出荷羽数	107,594	110,014	112,214	110,797
	前年比	101.8%※	102.2%	102.0%	98.7%

資料：畜産統計（農林水産省）

※ センサス調査年のため、平成 27 年、令和 2 年は調査無し。

ブロイラーの都道府県別出荷羽数は、鹿児島県が全国の 20.1%を占め、第 1 位となっています。本県は第 3 位で、全国の 15.9%のシェアを占めています（表 I-6-10）。

表 I-6-11 ブロイラーの出荷の主要道県の状況（令和元年）

区分	出荷羽数（千羽）	全国比率
鹿児島県	139,785	20.1%
宮崎県	136,597	19.6%
岩手県	110,797	15.9%
青森県	41,612	5.9%
北海道	37,750	5.4%
(全国)	695,335	100.0%

資料：畜産統計（農林水産省）

※ センサス調査年のため、平成 27 年、令和 2 年は調査無し。

ウ 鶏卵の生産量

—本県の鶏卵生産量は、全国第 15 位（令和元年）—

令和元年の全国の鶏卵生産量は 2,639,733 トンで、前年比 100.5%となっています。

令和元年の本県の鶏卵生産量は 79,882 トンで、前年比 95.1%となっています（表 I-6-11）。

表 I-6-12 鶏卵の生産動向 (単位：トン)

区 分		平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
全国	生産量	2,520,873	2,562,243	2,601,173	2,627,764	2,639,733
	前年比	100.8%	101.6%	101.5%	101.0%	100.5%
岩手県	生産量	79,522	82,033	87,652	83,997	79,882
	前年比	100.9%	103.2%	106.8%	95.8%	95.1%

資料：畜産物流通調査（農林水産省）

鶏卵の都道府県別生産量では、茨城県が全国の 8.9%を占め、第 1 位となっています。

第 2 位は 鹿児島県で全国の 7.1%を占め、本県は第 15 位で、全国の 3.0%のシェアとなっています（表 I-6-13）。

表 I-6-13 鶏卵生産の主要県の状況（令和元年）

区分	出荷量（トン）	全国比率
茨城県	234,209	8.9%
鹿児島県	187,797	7.1%
千葉県	166,471	6.3%
岡山県	136,443	5.2%
広島県	135,443	5.1%
岩手県	79,882	3.0%
(全国)	2,639,733	100.0%

資料：畜産物流通調査（農林水産省）

7 水産物

(1) 漁業生産量の推移

令和元年の全国の海面漁業及び海面養殖業は、総生産量が4,144千トン、総生産額が1兆3,484億円となっています。

遠洋漁業の撤退や後継者不足による漁獲能力の低下、さらには適正な資源管理等の取組等により生産量は減少傾向に推移しており、平成23年と比べ総生産量が88%、総生産額が102%となっています（表I-7-1、表I-7-2）。

令和元年の本県は、生産量は海面漁業が93千トン、海面養殖業が30千トンで、合計が123千トン、生産額は海面漁業が257億円、海面養殖業が89億円で、合計が346億円となり、平成23年次と比べ、生産量が143%、生産額が152%と震災以降増加傾向で推移しています（表I-7-1、表I-7-2）。

また、全国の水産業において、本県の漁業世帯数が第5位（シェア4%）、生産量が第9位（同3%）生産額が第12位（同3%）に位置付けられています（表I-7-3）。

表I-7-1 年次別漁業生産量の推移

単位：千トン

区分\年次		H23	H27	H28	H29	H30	R1	R1/H30	R1/H23
全国	海面漁業	3,824	3,550	3,264	3,258	3,359	3,228	96%	84%
	海面養殖業	869	1,069	1,033	986	1,005	915	91%	105%
	計	4,693	4,619	4,297	4,244	4,364	4,144	95%	88%
岩手	海面漁業	80	109	85	76	90	93	103%	116%
	海面養殖業	6	43	35	37	37	30	81%	500%
	計	86	152	120	113	127	123	97%	143%

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部） ※ラウンドの関係で計が一致しない場合がある。

表I-7-2 年次別漁業生産額の推移

単位：億円

区分\年次		H23	H27	H28	H29	H30	R1	R1/H30	R1/H23
全国	海面漁業	9,399	10,008	9,619	9,627	9,619	8,684	90%	92%
	海面養殖業	3,874	4,869	5,097	4,979	4,888	4,802	98%	124%
	計	13,273	14,877	14,716	14,606	14,506	13,486	93%	102%
岩手	海面漁業	217	306	272	298	272	257	94%	118%
	海面養殖業	11	78	88	95	88	89	101%	809%
	計	228	384	360	393	360	346	96%	152%

資料：漁業産出額（農林水産省統計部） ※ラウンドの関係で計が一致しない場合がある

表I-7-3 全国の水産業に占める本県の位置

区分		全国	岩手	順位	シェア
漁業世帯数（H30）（世帯）		79,067	3,406	5	4%
漁業就業者数（H30）（人）		151,701	6,327	4	4%
生産量（H30）	海面漁業（千トン）	3,359	90	11	3%
	海面養殖業（千トン）	1,005	37	11	4%
	計（千トン）	4,364	127	10	3%
生産額（H30）	海面漁業（億円）	9,377	287	6	3%
	海面養殖業（億円）	4,861	92	17	2%
	計（億円）	14,238	379	12	3%

資料：2018年漁業センサス（※）、海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

- 「つくり育てる漁業」の代表格であるアワビ、ワカメ、サケ、ウニの生産量は全国1、2位-

県はこれまで、「つくり育てる漁業」（サケ、アワビ、ウニなどの栽培漁業、ワカメ、コンブ、カキ、ホタテガイなどの養殖業）の推進により、定置網漁業、沿岸いか釣漁業、船びき網漁業などの沿岸漁業や、海面養殖業が本県水産業の主力となっています。

特に、生産量で見ると、アワビ類は全国第1位、養殖わかめ類とウニ類は全国第2位となっており、全国でも主要な産地の一つとなっています（表I-7-4）。

表I-7-4 主要水産物の生産順位

品目	全国生産量	全国順位					シェア
		1位	2位	3位	4位	5位	
アワビ類(R1) (トン)	829	岩手 145	千葉 86	三重 62	宮城 55	福岡 55	17%
養殖ワカメ類(R1) (百トン)	451	宮城 183	岩手 126	徳島 60	兵庫 33	長崎 10	28%
サケ類(R1) (百トン)	564	北海道 512	青森 22	岩手 19	宮城 6	新潟 2	3%
ウニ類(R1) (百トン)	79	北海道 46	岩手 9	青森 6.5	宮城 4.7	山口 2.4	11%

資料：海面漁業生産統計調査（農林水産省統計部）

(2) 秋サケ漁獲量等の推移

令和2年度の本県の漁獲量は1,734トン（対前年比76%）、漁獲金額は約13億円（同86%）と、漁獲量は減少しました。

また、平均単価は、前年に比べ123%と上がっています（表I-7-5）。

このような状況において、漁獲から市場、加工まで一貫した衛生管理下で製造される本県のイクラは、取引単価が主要産地の中で高く、令和2年度は6,527円/kgとなっています（表I-7-6）。

表I-7-5 本県の秋サケ漁獲量等の推移

区分\年度	H24	H28	H29	H30	R1	R2	R2/R1	R2/H24
漁獲量（トン）	7,557	8,745	7,289	10,269	2,288	1,734	76%	30%
漁獲金額（百万円）	4,385	6,210	6,395	5,615	1,495	1,286	86%	29%
平均単価（円/kg）	580	788	1,027	631	820	1,007	123%	174%

資料：秋さけ漁獲速報（県水産振興課）

表I-7-6 東京都中央卸売市場でのイクラ平均単価の推移

単位：円/kg

区分\年次	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R2/R1	R2/H27
岩手県	4,811	5,628	7,726	8,102	6,692	6,527	98%	136%
北海道	4,884	5,483	6,942	6,149	4,447	5,442	122%	111%
青森県	4,681	3,905	4,236	5,591	4,478	4,359	97%	93%
宮城県	3,892	4,206	6,116	6,301	5,020	6,195	123%	159%
全産地計	4,571	4,923	6,343	6,316	4,728	5,215	110%	114%

資料：東京都中央卸売市場年報

(3) アワビ漁獲量等の推移

令和元年の全国のアワビ漁獲量は829トン(前年比91%)、本県は漁獲量が145トン(同86%)でした。令和元年の本県の平均単価は、13,938円/kg(同108%)と前年より上回り、生産額は前年対比93%の約20億円と減少しました(表I-7-7)。

近年は、需要開拓や地域振興を目的として、アワビの蓄養販売などに取組む事業者も見られます。

表I-7-7 本県のアワビ漁獲量等の推移

区分\年次	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R1/H30	R1/H26
漁獲量 (トン)	304	344	286	181	168	145	86%	48%
生産額 (百万円)	2,841	3,587	2,225	1,763	2,173	2,021	93%	71%
平均単価 (円/kg)	9,345	10,427	7,780	9,740	12,934	13,938	108%	149%

資料：海面漁業生産統計調査、漁業産出額(農林水産省統計部)

(4) 養殖ワカメ生産量等の推移

令和元年の全国の養殖ワカメ生産量は、約4万5千トン(前年比89%)、本県は、約1万3千トン(同69%)となり、前年を下回りました(表I-7-8)。

岩手県沿岸全域で養殖されるワカメは、肉厚で歯ごたえがあり、色が濃く熱に強いことが特徴で、原料や食塩含有率、管理体制などの認証制度によって、その品質を維持しています。

表I-7-8 本県の養殖ワカメ生産量等の推移

区分\年次	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R1/H30	R1/H26
漁獲量 (トン)	15,731	18,972	17,681	18,908	18,222	12,647	69%	80%
生産額 (百万円)	1,856	2,783	3,946	4,200	3,874	3,882	100%	209%
平均単価 (円/kg)	118	147	223	222	213	307	144%	260%

資料：海面漁業生産統計調査、漁業産出額(農林水産省統計部)

-水産物の輸出入状況-

令和2年の全国の水産物輸入は、数量が約225.4万トン(前年比91%)となり、前年を下回りました。

品目別でみると、さけ・ますが約25万トン(前年比104%)と前年より増加し、いかがが約10.2万トン(前年比96%)、さばは、約52.8万トン(前年比80%)、さんまは約0.3万トン(前年比53%)、わかめが2.5万トン(前年比95%)などとなっています。

また、輸出は、さばが約17.2万トン(前年比101%)、さけ・ますが約1万トン(同101%)、すけそうだが約1.1万トン(同78%)などとなりました(表I-7-9)。

表 I-7-9 本県に係る水産物の輸出入状況（全国）

単位：千トン

品目\年次	H23	H28	H29	H30	R1	R2	R2/R1	
輸入	さけ・ます	258.4	230.1	226.5	235.1	240.9	250.8	104%
	さば	60.0	74.3	63.4	69.0	66.2	52.8	80%
	さんま	5.3	6.8	5	4.8	6.4	3.4	53%
	いか	89.9	99.2	125.1	102.5	105.8	102.0	96%
	あわび	2.0	2.2	2.3	2.3	2.6	2.1	81%
	ホタテ貝	0.7	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	100%
	うに	13.1	11.0	11	11	11	11.2	102%
	さけ科のものの卵くらい	2.8	2.6	2.1	1.7	1.6	1.1	69%
	わかめ	42.7	25.0	23.2	23.7	26.5	25.1	95%
	計	2,693.8	2,380.7	2,478.7	2,383.69	2,467.72	2,253.80	91%
輸出	さば	97.8	210.7	232.1	249.5	169.5	171.7	101%
	さんま	13.1	4.6	7.6	8.5	7.5	2.8	37%
	さけ・ます	22.4	18.3	12	10.2	10.2	10.3	101%
	すけそうだら	40.0	15.5	9.8	8.8	14.1	11.0	78%
	計	423.7	471.8	524.2	635.3	534.5	529.8	99%

資料：農林水産物輸出入概況（農林水産省）

※輸入及び輸出の計は、水産物全体の計であり上記品目以外も含む

(5) 水産加工品の生産量

平成30年の本県の水産加工品生産量は、約9万トンで前年を下回りました。

本県は、再加工用の原料向けである生鮮冷凍水産物の製造割合が高いことが特徴です（表 I-7-10）。

I-7-10 本県の水産加工品生産量の推移

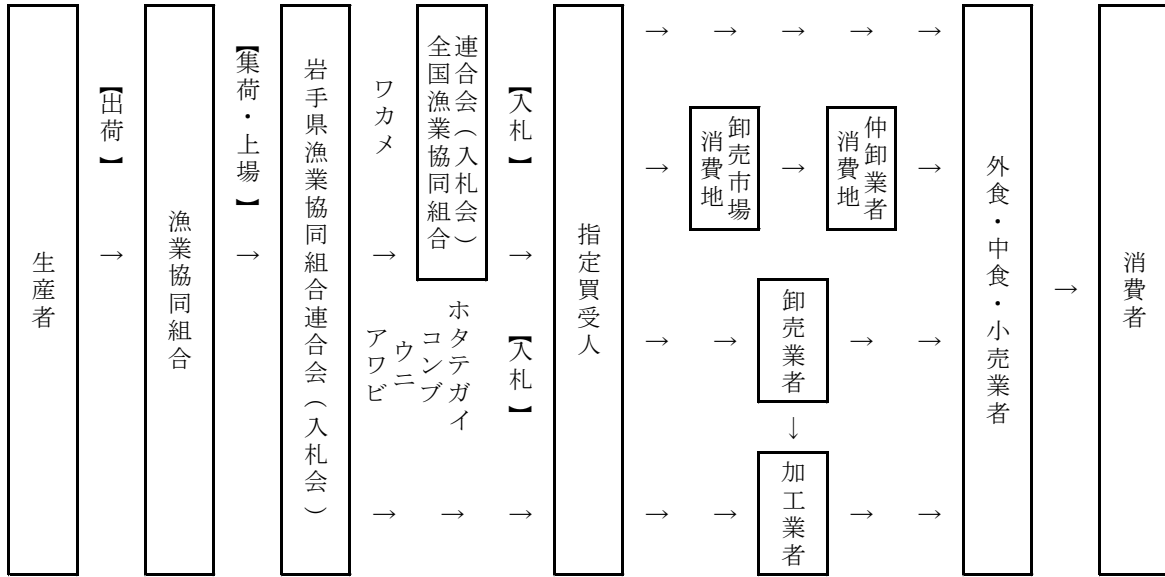
単位：トン

品目\年次	H23	H26	H27	H28	H29	H30	H30/H29	
高次	ねり製品	—	—	—	13	—	5	皆減
	冷凍食品	2,908	10,720	12,240	11,353	11,112	10,508	95%
	素干し品	98	316	366	313	198	14	7%
	塩干品	462	1,109	949	960	950	672	71%
	煮干し品	98	138	138	108	92	102	111%
	塩蔵品	718	1,323	947	726	692	747	108%
	くん製品	—	—	—	—	—	—	—
	節製品	—	4	—	7	3	2	67%
	その他（塩辛類等）	1,224	4,728	5,257	6,111	5,259	4,558	87%
	小計	5,508	18,338	19,897	19,591	18,306	16,608	91%
低次	生鮮冷凍水産物	36,066	94,086	79,552	74,330	71,529	72,829	102%
合計	41,574	106,061	112,424	99,449	93,921	89,437	95%	

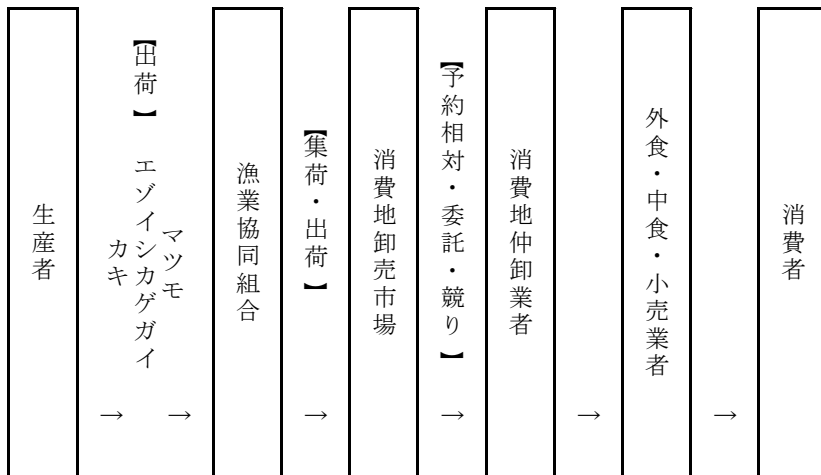
資料：岩手農林水産統計年報（東北農政局岩手県拠点）

【参考】 県産水産物の主な流通経路

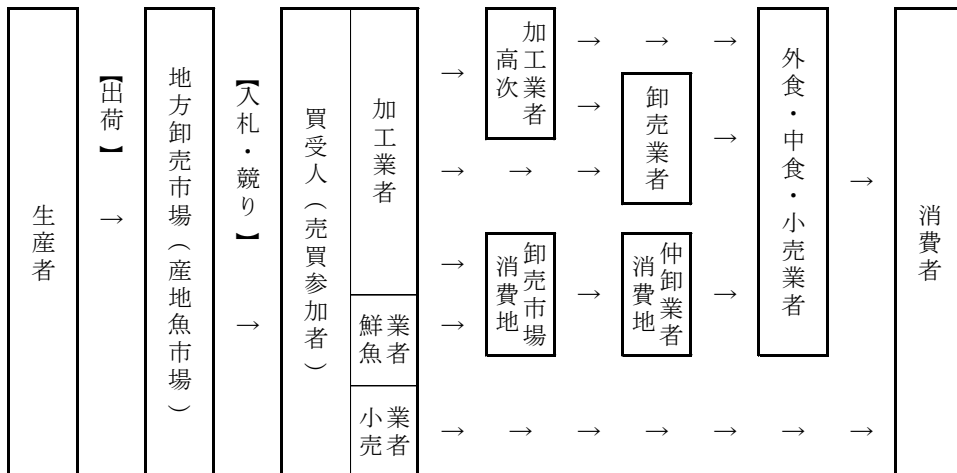
1 漁協系統販売① 漁連共販（共販指定の養殖・天然品目）



2 漁協系統販売② 漁協集出荷（養殖品目）



3 市場流通 生鮮魚介類（漁船漁業品目）



8 林産物

－国産きのこ類の生産量は、前年より減少－

令和元年の国産きのこ類総生産量（生換算）は455,688トンで、前年に比べ約12,000トン減少しました。このうちエノキタケが128,974トン、ブナシメジが118,597トン、生シイタケが71,071トン、マイタケが51,107トン、乾シイタケが2,414トン（生換算トン）となっています（表I-8-1）。

表I-8-1 全国のきのこ類の生産状況

単位:トン

品目	H27	H28	H29	H30	R1
乾シイタケ （生換算値）	2,631 (18,415)	2,734 (19,141)	2,544 (17,808)	2,635 (18,442)	2,414 (16,901)
生シイタケ	68,285	69,707	69,639	69,804	71,071
ナメコ	22,897	22,935	23,504	23,350	23,285
エノキタケ	131,683	133,297	135,745	140,168	128,974
ヒラタケ	3,263	3,449	3,828	4,001	3,862
ブナシメジ	116,152	116,271	117,712	117,966	118,597
マイタケ	48,852	48,523	47,739	49,687	51,107
エリンギ	39,692	40,475	39,088	39,413	37,635
キクラゲ	1,182	1,278	1,710	2,309	2,315
マツタケ	71	69	18	63	14
その他	2,261	2,338	2,114	2,205	1,927
総計	452,753	457,483	458,905	467,408	455,688

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

県内の生産動向をみると、乾シイタケについては、放射性物質の影響による出荷制限等により、生産量が大幅に減少しています。生産量は生シイタケが最も多く4,254トンで、ナメコ189トン、乾シイタケ111トン（生換算779トン）となっています（表I-8-2）。

表I-8-2 県内のきのこ類の生産状況

単位:トン

品目	H27	H28	H29	H30	R1
乾シイタケ （生換算値）	83 (581)	86 (599)	89 (624)	119 (830)	111 (779)
生シイタケ	4,774	4,827	4,452	4,195	4,254
ナメコ	282	200	230	220	189
エノキタケ	284	60	8	122	72
ヒラタケ	16	27	14	14	9
ブナシメジ	44	17	0	1	0.3
マイタケ	44	85	81	82	88
マツタケ	14	21	9	9	3

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

本県は、全国的なシイタケの産地であり、令和元年現在、生シイタケが全国第3位、乾シイタケが全国第5位の生産量となっています（表I-8-3、I-8-4）。

表 I-8-3 生シイタケ生産量の全国順位

単位:トン

順位	H27	H28	H29	H30	R1
1	徳島 (8,418)	徳島 (8,289)	徳島 (8,150)	徳島 (8,111)	徳島 (8,209)
2	北海道 (7,214)	北海道 (7,614)	北海道 (7,640)	北海道 (7,240)	北海道 (6,719)
3	岩手 (4,774)	岩手 (4,827)	岩手 (4,452)	岩手 (4,195)	岩手 (4,254)
4	秋田 (3,878)	秋田 (4,224)	秋田 (4,109)	秋田 (3,549)	群馬 (3,967)
5	群馬 (3,780)	群馬 (3,991)	群馬 (4,025)	群馬 (3,989)	秋田 (3,625)

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

表 I-8-4 乾シイタケ生産量の全国順位

単位:トン

順位	H27	H28	H29	H30	R1
1	大分 (1,115)	大分 (1,144)	大分 (1,044)	大分 (1,038)	大分 (946)
2	宮崎 (487)	宮崎 (523)	宮崎 (417)	宮崎 (477)	宮崎 (417)
3	熊本 (203)	熊本 (205)	熊本 (203)	熊本 (209)	熊本 (182)
4	愛媛 (163)	愛媛 (180)	愛媛 (153)	愛媛 (163)	愛媛 (123)
5	静岡 (104)	静岡 (104)	静岡 (102)	岩手 (119)	岩手 (111)
6	岩手 (83)	岩手 (86)	岩手 (89)	静岡 (102)	静岡 (105)
7	長崎 (82)	長崎 (78)	鹿児島 (73)	鹿児島 (71)	鹿児島 (83)

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

—乾シイタケの市場価格が大幅に上昇—

きのこ類のなかで最大の生産量となっているシイタケは、乾、生ともに輸入品との競合のため、市場価格が低水準で推移してきました。

乾シイタケは、平成4年ごろから輸入量が急激に増加し、平成6年には輸入量が国内生産量を上回りました。9年から13年まで輸入量が9千トン台で推移していましたが、16年からは減少に転じ、令和元年は4,869トンとなっています。輸入品は国内需要量7,250トンの約6.7割を占めています（表I-8-5）。

表 I-8-5 乾シイタケの需給動向

単位:トン、%

	H27	H28	H29	H30	R1
国内生産量	2,631	2,734	2,544	2,635	2,414
県内生産量	83	86	89	119	111
輸出量	59	30	26	24	33
輸入量	5,029	5,134	5,050	4,998	4,869
中国産	5,025	5,113	5,035	4,989	4,864
シェア	99.9	99.6	99.7	99.8	99.9
国内需要量	7,602	7,838	7,568	7,609	7,250
輸入シェア	66.2	65.5	66.7	65.7	67.2

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

このような中で、国産の乾シイタケ価格は低下の傾向にあり、平成10年には1kg当たり3,000円を割り込みましたが、輸入農産物の残留農薬問題の影響や国内生産量の減少などから、19年以降は高値基調で取引されてきました。しかし、24年は放射性物質の影響を受けた地域もあったことにより、国内価格は1kg当たり2,000円を割り込み、25年はさらに国内価格が低下しました。その後、27年から上昇に転じたものの、令和元年は1,958円と価格が落ち込みました（表I-8-6）。

表I-8-6 乾シイタケの価格の推移

単位：円/kg

	H27	H28	H29	H30	R1
国内価格	3,521	4,042	3,736	2,948	1,958
輸入価格	1,583	1,224	1,215	1,219	1,192

注：国内価格：東京・静岡の各市場における山成の平均価格、輸入価格：輸入金額÷輸入量
資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

生シイタケも平成5年から輸入が始まり、平成12年には4万トンを超え国内需要量の39%を占めるまでになりました。令和元年の輸入量は1,835トンとなっています（表I-8-7）。

表I-8-7 生シイタケの需給動向

単位：トン、%

	H27	H28	H29	H30	R1
国内生産量 (菌床) (トン)	68,285 (60,674)	69,707 (62,385)	69,639 (63,246)	69,804 (63,839)	71,071 (65,157)
県内生産量 (菌床) (トン)	4,774 (4,605)	4,827 (4,561)	4,452 (4,291)	4,195 (4,041)	4,254 (4,098)
輸入量(トン)	2,388	2,015	2,108	1,942	1,835
中国産(トン)	2,388	2,015	2,108	1,942	1,835
シェア(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
国内需要量 (トン)	70,673	71,722	71,747	71,746	72,906
輸入シェア (%)	3.4	2.8	2.9	2.7	2.5

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

生シイタケの市場価格についても、平成4年をピークに低迷しており、近年は900～1,000円/kg程度で推移しています（表I-8-8）。

表I-8-8 生シイタケの価格の推移

単位：円/kg

	H27	H28	H29	H30	R1
国内価格	1,031	1,052	1,048	968	949
輸入価格	384	340	324	329	314

注：国内価格：東京中央卸売市場年平均価格、輸入価格：輸入金額÷輸入量
資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

－県産乾シイタケの出荷割合は、全農が30%、県森連が26%－

乾シイタケの集荷割合は、全農が30%、県森連が26%と2者で約6割を占め、系統を通じた出荷がほとんどとなっています（表I-8-9）。

表I-8-9 県産乾シイタケの集荷販売実績 単位：トﾝ(%)

集荷団体	H27	H28	H29	H30	R1
全農	32 (39)	33 (38)	32 (36)	38 (32)	32 (30)
県森連	34 (41)	37 (43)	28 (32)	38 (32)	29 (26)
県椎茸農協	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
集荷業者等	4 (5)	6 (7)	7 (8)	23 (19)	31 (28)
計	70 (84)	75 (88)	67 (76)	99 (84)	92 (84)
自家用その他	13 (16)	10 (12)	21 (24)	19 (16)	18 (16)
合計	83 (100)	85 (100)	88 (100)	118 (100)	110 (100)

注)： () 内は集荷団体別割合である。

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）

生シイタケは、全農系統を通じた出荷が48%となっており、その他の集荷業者と合わせて、集荷団体による集荷が約9割となっています（表I-8-10）。

表I-8-10 県産生シイタケの集荷販売実績 単位：トﾝ(%)

集荷団体	H27	H28	H29	H30	R1
全農	2,215 (46)	2,782 (58)	2,297 (52)	1,973 (47)	2,026 (48)
県森連	- (-)	20 (0)	- (-)	- (-)	- (-)
集荷業者等	1,494 (31)	1,290 (27)	1,728 (39)	1,775 (42)	1,868 (44)
計	3,709 (78)	4,091 (85)	4,025 (91)	3,748 (89)	3,894 (92)
自家用その他	1,065 (22)	725 (15)	418 (9)	446 (11)	359 (8)
合計	4,774 (100)	4,817 (100)	4,442 (100)	4,194 (100)	4,253 (100)

注)： () 内は集荷団体別割合である。

資料：特用林産物生産統計調査（農林水産省）